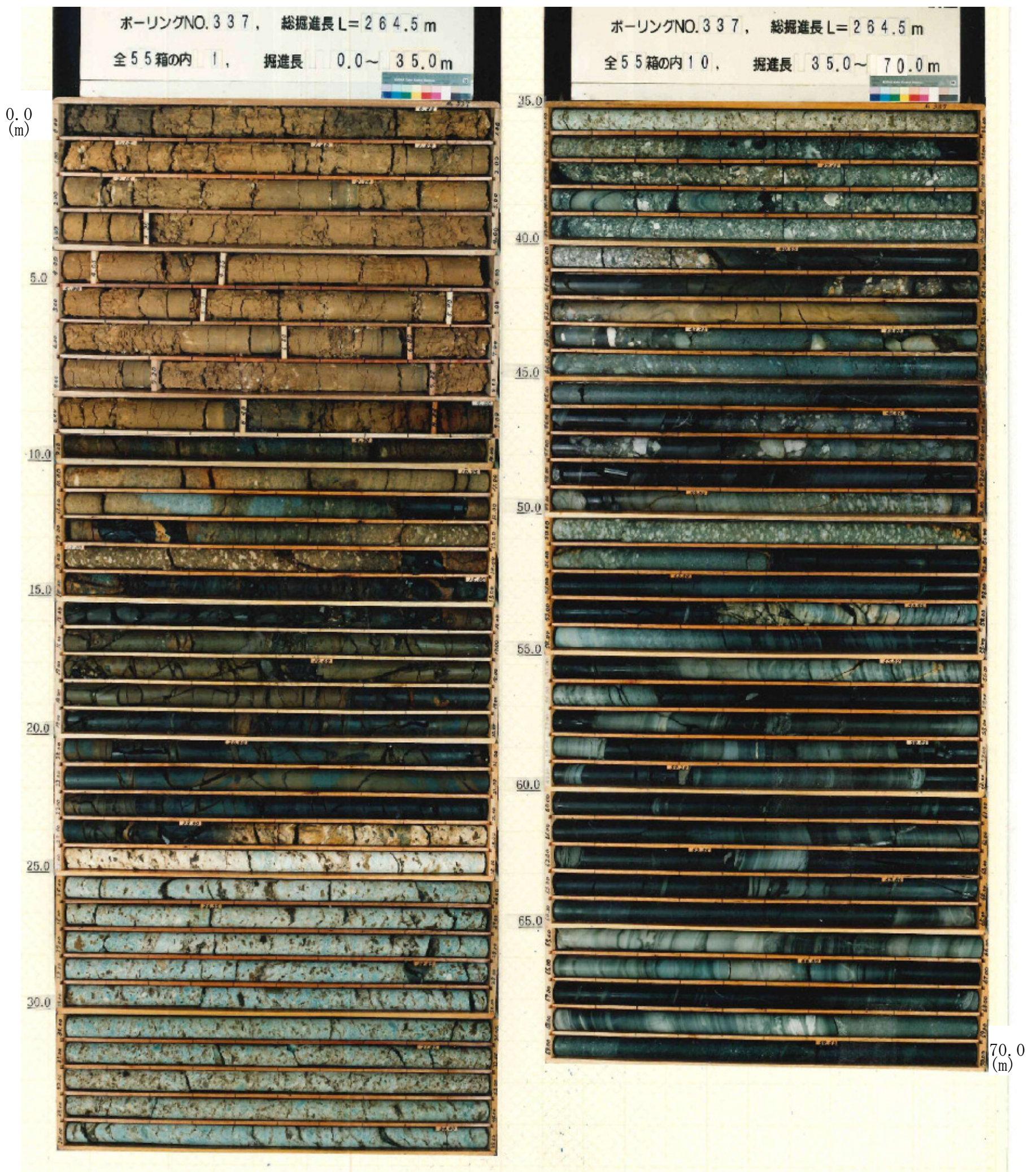
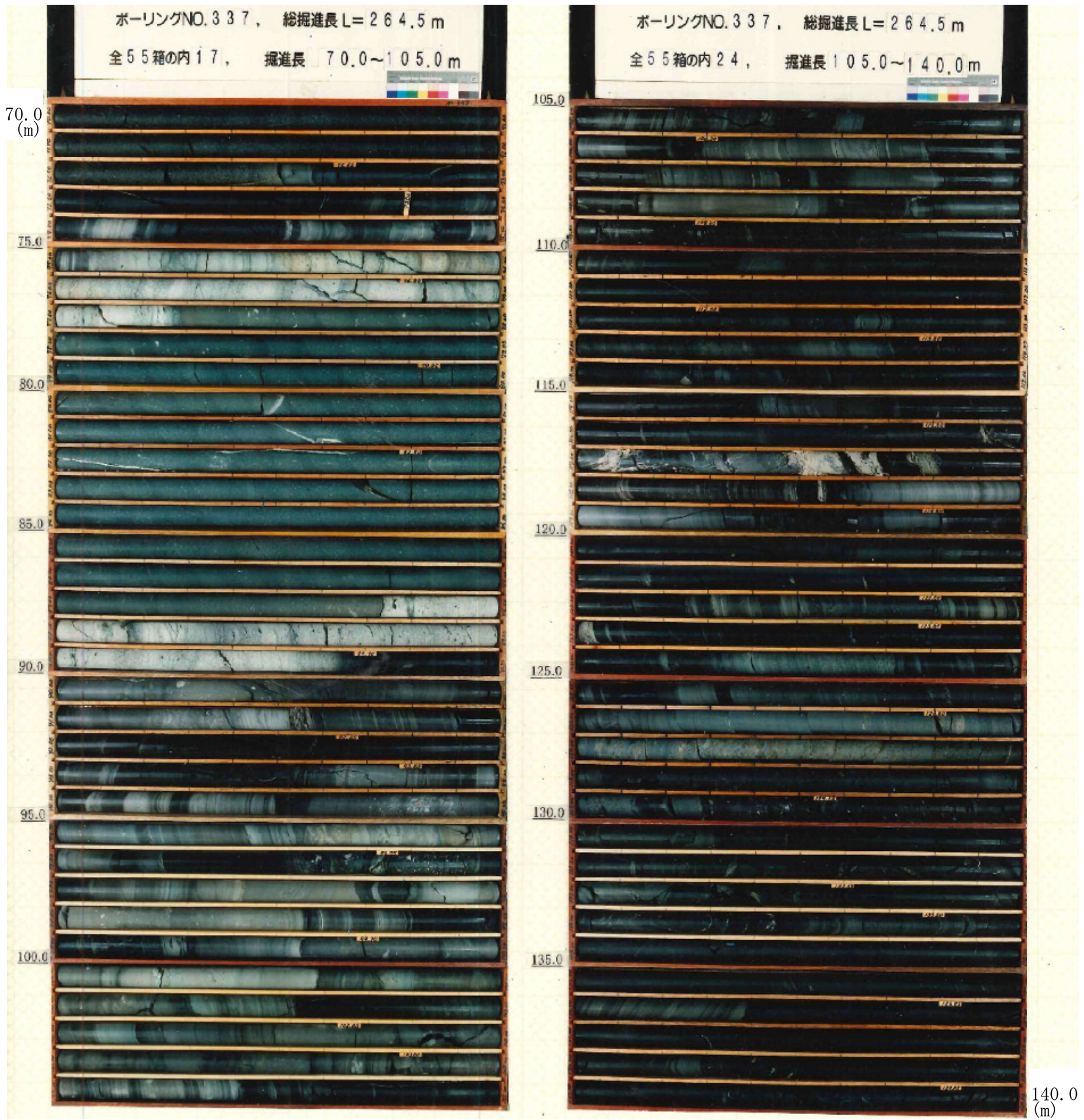


No. 337 孔 (1/4)



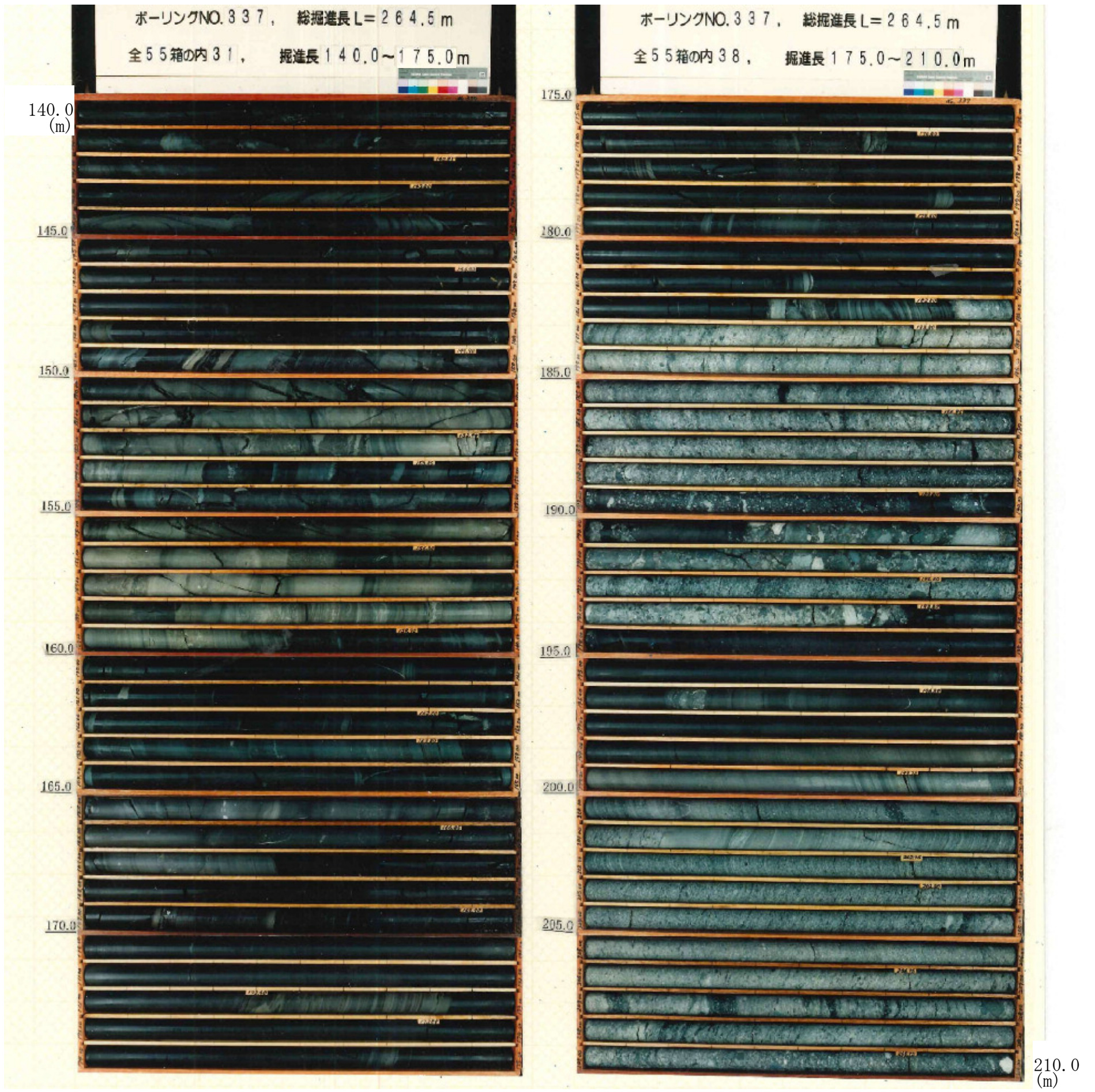


No. 337 孔 (2/4)



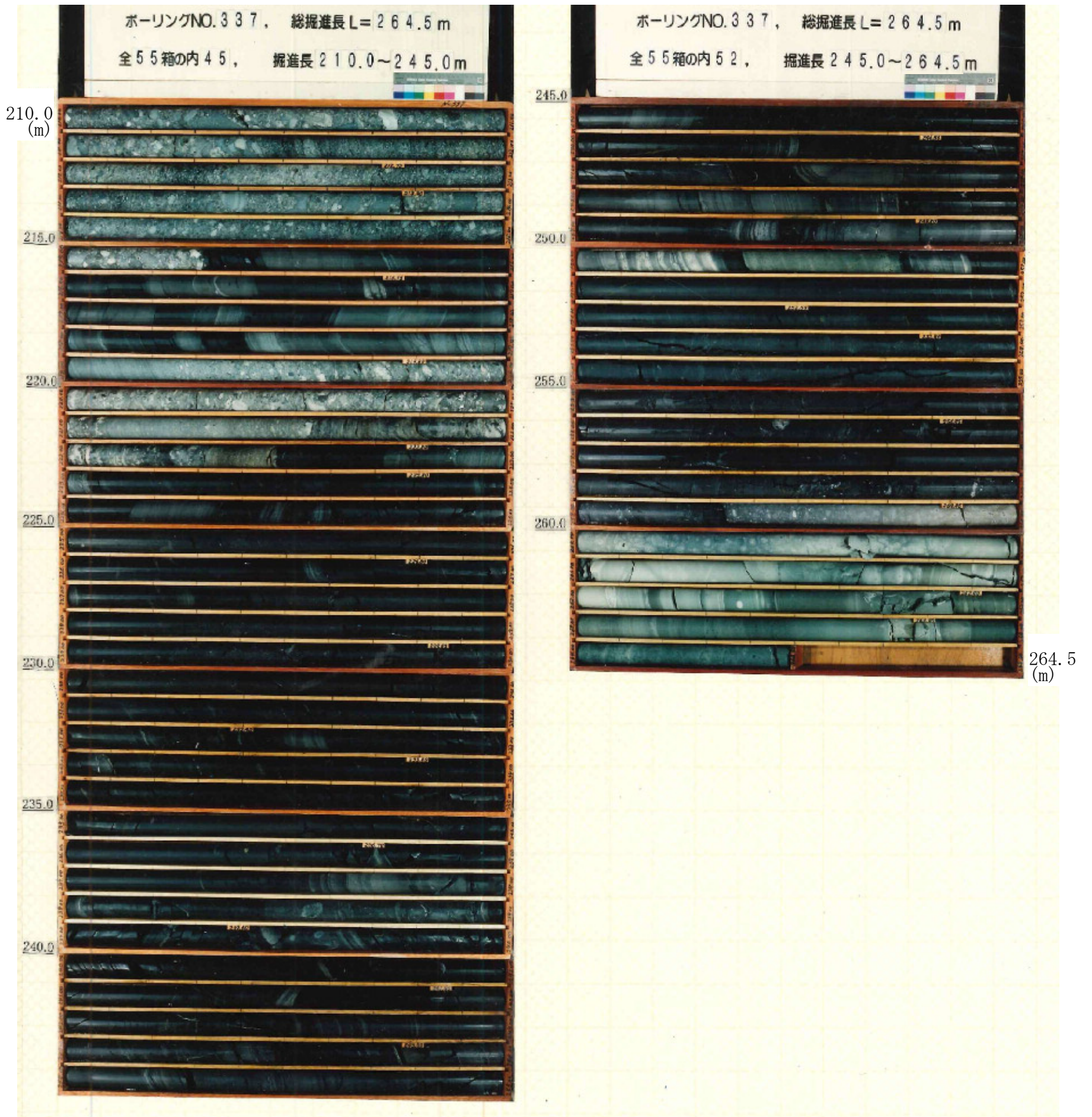


No. 337 孔 (3/4)





No. 337 孔 (4/4)





No. 337 孔 (1/9)

孔口標高		T.P. +43.80 m		掘進長		264.50 m		調査期間		1997年 8月 5日 ~ 1997年 10月 14日		試錐機械		D2-K		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +3.50 m		孔内試験項目		孔内水平載荷・透水・岩石・三軸・PS検層(ゲイガー)・γ線・孔底		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 (T.P. (m))	層厚 (m)	柱状区	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 土曜岩類柱状 砂片柱状 塊状状状状状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット コア	孔内試験 項目 深度 (m)	記事
0	0.00	43.80	0.53		凝灰岩	濃褐色	D		7	5	100	0	0			風化土、風化による砂状を示す。粗粒が多く見られる。0.30mに木根。下位との境界は不明瞭。
1					凝灰岩	濃褐色	D				100	0	0			風化による砂状を示す。岩石組織を部分的に残す。部分的に流紋岩からなる風化残留物(φ約10mm)を含む。下位との境界は不明瞭。0.55m, 1.90m, 2.20mに植物根。
3	3.20	40.60	2.67		凝灰岩	濃褐色	D				100	0	0			風化による土砂状を示す。濃はφ3mm以下が主体。下位との境界は不明瞭。4.23mに植物根。
5	5.29	38.51	2.09		凝灰岩	褐色	D				100	0	0			風化による砂状を示す。岩石組織を部分的に残す。部分的に流紋岩からなるやや扁平な風化残留物(φ5~10mm, 最大20mm)が認められる。下位との境界は不明瞭。
7					凝灰岩	濃褐色	D				100	0	0			
8	7.88	38.53	2.36		凝灰岩	濃褐色	D				100	0	0			厚さ20cm程度の頁岩を挟む凝灰岩。9.00m以後は強風化により砂状を示す。以て強風化による風化汚染を受けている。φ1~4mm(最大20mm)の粗粒流紋岩質石、安山岩の角~亜角礫を含む。下位との境界は漸移し不明瞭。9~10'の割れ目が発達し、11.9~12.30mは岩片状を示す。10.69~11.75m間で上方細粒化が認められる。8.38~8.81m付近に不明瞭な頁岩の塊み。11.78~11.94m, 12.09~12.30mに上下に明確な境界を有する塊状頁岩が存在し、後者は12.22~12.24mに粗粒凝灰岩を挟む。
9					凝灰岩	濃褐色	D				100	0	0			
10					凝灰岩	濃褐色	CM				100	20	83			
11					凝灰岩	濃褐色	CM				100	28	73			
12					凝灰岩	濃褐色	CL				100	28	74			
13	12.82	31.18	4.77		凝灰岩	凝結黒灰	CM				100	16	51			φ4~20mmの亜角~亜円(一部偏平)流紋岩を13.77m以後で顕著に含み、基質は粗粒凝灰岩。13.80~13.90mに明確な上下境界を有する岩片状頁岩を挟み、13.77m以後はφ2~10mmの流紋岩、安山岩、頁岩の角~亜角礫を含む。下位との境界は明瞭であるが、全体が風化を受けており、低角度~高角度割れ目が見られる。13.90m以後はやや脆い。
14	14.12	29.38	1.58		凝灰岩	凝結黒灰	CM				100	27	80			やや凝灰質な黒色頁岩を主体とし、上部は部分的に細~中粒凝灰岩を挟むが、下部は粗粒凝灰岩。層理に10~20°を有するが、下部では30~60°を強く示し全体に乱れる。下位との境界は明瞭である。割れ目は全体に発達し、細粒~粗粒状。14.32m付近、厚さ約10mmの褐色粗粒凝灰岩(60°)を明瞭に挟む。15.20m付近では横状褶曲を示す。15.30m以後は強風化。
15					凝灰岩	凝結黒灰	CM				100	8	0			15.73 16.20
16	15.37	27.43	1.76		凝灰岩	凝結黒灰	CM				100	8	0			15.73 16.20
17					凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	13	25			15.73 16.20
18					凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	16	16			15.73 16.20
19	16.67	25.13	2.80		凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	19	19			凝灰質を有する黒色頁岩主体で、一部に粗粒凝灰岩を挟む。層理が10~20°で見られる。下位との境界は不明瞭。層理と平行な割れ目、高角度割れ目が全体に発達し、岩片状を示す。18.81mに厚さ8mmのやや軟質な赤褐色の片状頁岩を挟む(10°)。18.89m付近に増色の泥で満たされた集塊化石。割れ目に沿った酸化汚染が見られる。18.90m付近、土塊構造を示す。19.86~20.12m間、風化層理を有する粗粒凝灰岩。
20	20.48	23.50	1.73		凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	11	11			凝灰質を有する黒色頁岩主体で、一部に粗粒凝灰岩を挟む。層理が10~20°で見られる。下位との境界は漸移し不明瞭。低角度、高角度割れ目が全体に発達し、岩片状を示す。20.74~20.80m間φ1~8mmの角~亜角礫石を含む。21.14~21.32m間φ2'の粗粒
21	21.32	22.48	0.52		凝灰岩	凝結黒灰	CM				100	18	18			21.05m以後は凝灰岩の粗粒凝灰岩。層理は10~20°の発達を有する粗粒凝灰岩。塊状にはφ1~5mmの凝灰岩質の粗粒凝灰岩が存在。下位境界は漸移し明瞭。塊状凝灰岩は高角度割れ目(60°)を明瞭に発達し、層理と平行な割れ目が発達し、岩片状。割れ目に沿った酸化汚染が見られる。
22	22.41	21.39	1.09		凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	21	38			一部粗粒凝灰岩を挟む凝灰岩(約10°)。層理と平行な割れ目が発達し、岩片状。割れ目を中心に酸化汚染。22.88~23.05mの凝灰質頁岩はγ線が発達し、やや脆い。22.47mは硬質岩片状。
23	23.36	23.44	0.08		凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	11	11			基質に泥分をほとんど含まず、全層で凝灰岩が風化を受けて緑色を示す。φ2~20mm(最大40mm)の流紋岩、安山岩の角~亜角礫。φ10~30mmの偏平流紋岩を含む。凝灰岩は0~20°の偏平面を有する。下位との境界は漸移的。26.00m以後は偏平面をほとんど含まず、角~亜角礫主体になり、下位層に漸移する。0~30°の低角度割れ目が見られるが、割れ目の発達はない。空洞がいくつか見られ、長さ1~2mmの柱状晶形結晶が認められる。
24					凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	16	58			24.00
25					凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	34	93			24.00
26					凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	53	90			24.00
27					凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	35	81			24.00
28					凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	50	89			24.00
29					凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	41	93			24.00
30					凝灰岩	凝結黒灰	CL				100	40	95			24.00



孔口標高		I.P. +43.80 m		掘進長		264.50 m		調査期間		1997年 8月 5日 ~ 1997年 10月 14日		試験機械		D2-K		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +3.50 m		孔内試験項目		孔内水平載荷・透水・岩石・三軸・PS検査(ゲージ付)・φ78-φ・孔曲		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 上層部は片状 砂片片柱状 板状板状板状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット ジョーブ	孔内試験 項目 深度 (m)	記 事
30																
1											100	31	31			
2											100	36	30			
3											100	71	100			
4											100	79	89			
5											100	85	85			
6	36.31	7.49	0.31		火山礫凝灰岩						100	86	96			
7											100	67	92			基質に泥分を多く含み、φ1~40mm(最大12cm)の流紋岩、安山岩、玄武岩、凝灰岩、凝灰質頁岩、黒色頁岩の角~亜円礫を含み、細かい扁平石(最大厚10mm)が見られる。黒色頁岩は不定形なものが主体である。薄層上部、下部で小さくなる傾向にある。下位との境界は漸移し不明瞭。36.92~37.03m間黒色頁岩を挟み、境界面と平行な高角度(50°)割れ目が発達し、岩片状。
8											100	47	96			
9	39.64	4.73	0.73		凝灰質頁岩						100	55	93			基質に泥分を含み、上位層と同様の礫がφ1~3mmの角~亜円礫で含まれる。40.19m以深で泥分により褐色を呈し、割れ目面に酸化汚染を被る。下位との境界は明瞭(30°)。
40	50.34	2.42	1.54		火山礫凝灰岩						100	58	100			塊状頁岩からなり、40.45~40.57mで凝灰岩を取り込む。下位境界は凸凹し明瞭。全域で風化により褐色を帯び、割れ目面に酸化汚染。10~30°の割れ目が全体で見られる。
1	41.61	3.17	1.25		黒色頁岩						100	36	97			基質に泥分を含み、礫はφ1~20mmの亜円礫を主体とし、時に最大10mmを含む。凝灰岩、安山岩、玄武岩、凝灰質頁岩の角~亜円礫を含む。下位境界は不定形で明瞭。全域で風化により褐色を呈し、割れ目面に板状で凝灰質頁岩の角~亜円礫を取り込む。42.91m以深は泥分混入となる。下位境界はわずかに凸凹し明瞭。風化により褐色を呈し、割れ目面に酸化汚染。
2	38.11	1.59	0.42		凝灰質頁岩						100	25	74			φ1~10mm程度の礫に角~亜円礫を主体とするが、43.93m以深及び44.03m以深はφ1~40mmの礫からなり、多く混入する。下位との境界は漸移する。43.70m付近、φ40mm、45.00~45.95m付近、φ10cm以上の凝灰岩礫で凝灰質頁岩を取り込む。45.00m
3	43.02	6.75	0.91		凝灰質頁岩						100	45	95			粗粒凝灰岩からなり、新々にφ2~20mm(最大40mm)の流紋岩、凝灰質頁岩の角~亜円礫を伴い、44.45m以深は、上位層より連続し、差風化を示す。又44.97m以深は正風化を示す。下位との境界は明瞭で平坦面(30°)をなす。
4	45.31	0.51	1.15		火山礫凝灰岩						100	43	88			凝灰岩を互層状に挟む黒色頁岩、挟む凝灰岩に風化を被り、上面は漸移的に、下面は明瞭に挟まれ、層厚(30°)を有する。
5	45.32	-1.82	1.41		凝灰岩						100	55	100			凝灰質頁岩を有し、φ2~50mmの流紋岩、安山岩、玄武岩の角~亜円礫からなり、46.89m以深は、礫の混入を伴った明瞭な境界(30°)を有する頁岩。46.85~47.06mは塊状で明瞭な境界(上:30°、下:30°)を有する頁岩。47.25~47.43mは塊状で明瞭な境界(上:礫の混入により凸凹有り、下:30°)を有する凝灰質頁岩が見られる。下位との境界は明瞭で礫が入り込んでいる。頁岩中に割れ目が見られる。
6	44.37	-2.47	0.45		黒色頁岩						100	60	90			頁岩主体で凝灰質頁岩、凝灰岩を挟む。下位との境界は明瞭(30°)。層理と平行な割れ目が見られ、48.11~48.21m間高角度割れ目発達。48.88m以深で割れ目が密集し岩片状。
7	48.35	6.22	1.75		凝灰質頁岩						100	58	93			層~中凝灰岩主体。48.10~48.17mは岩片状を呈する頁岩。49.10m以深に上方風化。49.10~49.55m、49.55m以深で割れ目に酸化汚染。
8	48.36	-5.12	0.37		黒色頁岩						100	48	79			φ5~15mmのやや扁平な流紋岩礫の基質との同化傾向が伺える。全域で風化を受け、基質がわずかに褐色汚染により褐色を帯びる。下位との境界は流紋岩礫が漸減し不明瞭。
9	49.36	-3.34	0.45		凝灰岩						100	60	60			凝灰岩主体。下位との境界は凸凹を有し明瞭。酸化汚染を伴う高角度(70°)割れ目が見られる。
50	51.19	-2.38	1.24		火山礫凝灰岩						100	79	97			塊状頁岩。下位との境界は漸移し不明瞭。51.87m付近に酸化汚染を伴う凝灰質頁岩が層状(20°)に混れて見られる。
1	51.31	-2.71	0.33		凝灰岩						100	41	74			凝灰質頁岩~凝灰岩の上方漸移が顕著。下位との境界は平坦面(30°)を有し明瞭。52.56m以深は割れ目がやや密集し、板状。
2	52.32	-3.65	0.71		黒色頁岩						100	52	93			塊状頁岩。52.31mに最大8mmの凝灰岩を挟み、52.16m以深に割れ目が密集し岩片状になり、割れ目面に酸化汚染。下位との境界は明瞭。
3	52.47	-3.77	0.45		凝灰岩						100	13	37			53.43m以深は、凝灰質頁岩の角~亜円礫を取り込む。下位との境界は平坦面(30°)を有し明瞭。53.57m以深は高角度(50~80°)割れ目が密に岩片~短片状を呈し、53.81m以深は割れ目に沿った酸化汚染が認められる。
4	52.49	-4.59	0.52		黒色頁岩						100	40	89			凝灰岩(φ10~40mm)頁岩~凝灰岩への酸化汚染を伴う互層。
5	54.43	-10.38	1.07		凝灰岩						100	34	83			塊状頁岩。約30°の境界を有し、55.18m付近で凝灰質頁岩に漸移。
6	54.36	-11.04	0.38		凝灰質頁岩						100	24	83			66.57m付近に凝灰岩。66.30~66.60m付近に凝灰岩。66.60m以深は凝灰岩からなり、凝灰質頁岩の角~亜円礫を取り込む。下位との境界は明瞭に見られる。56.14m以深は中粒で流紋岩(約20°)と平行な割れ目が密集し、やや連続。
7	56.24	-11.48	0.41		凝灰岩						100	36	60			塊状頁岩。凝灰質頁岩(15°)をいくつか有する。下位との境界は相互層状を呈し不明瞭。
8	57.12	-12.20	0.85		黒色頁岩						100	33	68			部分的に細粒凝灰岩と頁岩を挟む。10~15°の層理を有し、57.48m以深、58.00m以深に乱地層理を示す。57.91~58.12mは細粒凝灰岩からなり酸化層理を有し、層理に沿った割れ目が発達し、57.50~57.55mは割れ目が密集し、短片状。層理と平行な割れ目が多く、58.47mに連続。下位との境界は凸凹を有し明瞭。
9	58.81	-13.31	1.77		凝灰質頁岩						100	28	54			塊状頁岩。59.01~59.08mに凝灰岩を挟み(10~20°)、層理と平行な
60	59.37	-13.77	0.58		凝灰質頁岩						100	22	55			境界(15°)の発達する凝灰質頁岩。59.85m付近に扁平状粘土で、漸進で変移する。厚さ30mm、傾斜:上盤10°、下盤20°。



孔口標高		T. P. +43.80 m		掘進長		264.50 m		調査期間		1997年 8月 5日 ~ 1997年 10月 14日		試験機械		D2-R		
角度		—		方向		—		孔内水位		T. P. +3.50 m		孔内試験項目		孔内水平載荷・透水・岩石・三軸・PS検査(ワ・リ・サ)・D7・4-1・孔曲		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T. P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	孔径 ビット コアチップ	孔内試験 項目 深度 (m)	記 事
60																
1	61.48	-17.62	1.32		黒色頁岩		C <sub>H</sub>				100	38	98		60.83	層状を少量侵入する黒色頁岩主体で、所々に細粒凝灰岩層を挟む。割れ目(15°)が見られる。上段境界は不明瞭で、下段境界は斜交層状を示し不明瞭。60.24~60.27m, 60.84~60.90mに炭化産物を伴う細粒凝灰岩で、乱堆積構造が見られる。
2	62.06	-18.24	0.74		凝灰質頁岩	緑灰	C <sub>M</sub>				100	25	69		61.96	葉理(15~20°)が発達し、一部黒色頁岩を挟む。下位との境界は不明瞭。61.96m以後は層状を有し不明瞭(20°)。61.96m以後は細粒凝灰岩で割れ目が発達し、頁片
3	62.47	-18.67	1.41		黒色頁岩	黒灰	C <sub>H</sub>				100	15	44		62.49	62.49~62.50mは細粒凝灰岩を有する細粒凝灰岩からなり、細粒凝灰岩の頁片。凝灰岩との境界は上下とも厚さ(15°)で、下段境界付近では炭化産物が見られる。凝灰岩中に多量な葉理、下位との境界は互斜(15°)を示し不明瞭。崩壊と平行な割れ目が多く、62.49~62.50mには方解石を伴う高角度割れ目(70~80°)が見られ、崩壊状を示す。
4	63.18	-20.26	0.71		凝灰質頁岩	緑灰	C <sub>M</sub>				100	19	58		63.65	63.65m以後は頁岩と凝灰岩が優勢で、細粒凝灰岩を伴う互層状が見られる。以降は20°の葉理を有し、下位との境界は不明瞭。63.65m以後は層状を有する頁岩。下位との境界は不明瞭(20°)。φ0.5~4mmの角~亜角礫の石灰質凝灰岩、崩壊と平行な割れ目が見られる。
5	64.30	-21.02	0.82		黒色頁岩	黒灰					100	27	93		65.45	細粒凝灰岩主体で65.53~65.71m間は頁岩と互層状を示す。葉理(20°)が発達し、斜交葉理が見られる。全体に乱堆積構造が認められ、下位との境界は不明瞭(15°)。崩壊と平行な低角度割れ目が主体的だが一部斜交する。66.78m以後は崩壊と平行な割れ目がやや顕著。
6					凝灰岩	緑灰					100	55	98		65.8	
7	65.80	-23.02	2.20		凝灰岩	緑灰					100	19	81		67.0	層状炭化産物を伴う凝灰質頁岩(厚さ5~20mm, 20°)を67.0~67.43m間に伴う頁岩。下位との境界は崩壊し不明瞭。67.01mに崩壊面と平行な割れ目。67.37mにφ6mmの偏平石灰質凝灰岩。
8	67.41	-23.21	0.81		黒色頁岩	黒灰					100	27	99		67.44	細粒凝灰岩を多く含む(20m, 20°)。φ1~4mmの流紋岩質凝灰岩を伴う。凝灰岩主体で、68.04m以後は凝灰質頁岩と凝灰岩を伴う。全体に崩壊構造(20°)。下位との境界は不明瞭な平坦面(20°)をなす。
9	67.37	-23.17	0.76		凝灰質頁岩	緑灰					100	66	100		69.4	φ1~3mmの長石とφ1~2mmの輝石からなるドライト。69.01m以後、72.48m以後は凝灰岩になり、厚さ5mm程度の急冷線を示す。上段との境界には厚さ10mm程度のφ約2mmの長石濃集帯が認められる。69.63m, 70.17m, 70.98m, 71.20m, 71.31m, 72.27mに厚さ1~4mm, 10~40°の条線を伴う炭化産物が認められる。不規則な割れ目が散見される。下位との境界は平坦面(20°)をなす。
10	68.57	-24.37	0.79		凝灰岩	緑灰					100	88	100		70.7	72.00mに明確な岩相境界(20°)が見られ、以後は細粒凝灰岩。以降は炭化産物を伴った凝灰質頁岩からなる。下位との境界は崩壊し不明瞭。72.58m付近以降は炭化産物を伴った構造を示す。不規則な割れ目が発達。
11					凝灰質頁岩	緑灰					100	26	67		72.58	凝灰質頁岩(1~4mm)を多数含む凝灰岩。高角度割れ目が72.58m(割れ目方向に炭化産物)、73.58m(割れ目方向に方解石と炭化産物の単結晶)に存在。
12	70.21	-25.77	0.84		凝灰質頁岩	緑灰					100	30	87		73.58	74.29~74.31mに頁岩を挟み、74.51~74.53mに中粒凝灰岩を伴った凝灰質凝灰質頁岩。葉理(10°)が発達し、75.34m, 74.21mに斜交葉理が見られる。下位との境界は不明瞭(15°)で急冷線を示す。崩壊と平行な割れ目が見られる一方、頁岩中には高角度(60°)割れ目も見られる。
13	71.01	-24.81	0.98		凝灰質頁岩	緑灰					100	36	90		74.8	粗~細粒凝灰岩からなり全体に不均質。75.10m以後は細粒凝灰岩からなり、葉理(15°)発達。75.00~75.05mに面無断層が見られる。下位との境界は平坦面で不明瞭(15°)。下位の安山岩による熱変質は不明瞭。部分的に高角度割れ目(60~90°)が集中。厚さ1mm程度の偏平輝石が偏在する。
14	72.70	-23.40	0.68		凝灰質頁岩	緑灰					100	54	88		76.11	φ1~3mmの長石、φ1~2mmの緑色鉱物が炭化産物を伴った安山岩。78.45m以後にはφ1~3mmの、87.70m以後にはφ0.5mmの粒状炭化産物が偏在する。下位との境界は凹凸面を有し不明瞭。上段との境界は5mm程度、下位との境界は5mm程度に急冷線が見られる。
15	74.34	-21.14	1.24		凝灰質頁岩	緑灰					100	54	88		76.9	81.50~82.70mに70~90°の高角度で方解石が平板状(厚さ5mm)に認められる。83.75m周辺の割れ目、目の方解石が伴う。78.35m以後、87.05m以後は崩壊に崩壊した方解石が見られる。高角度割れ目(10~40°)がわずかに見られる。
16					凝灰岩	緑灰					100	59	89		77.1	
17	77.38	-23.45	0.34		凝灰岩	緑灰	C <sub>H</sub>				100	57	98		78.35	中~細粒凝灰岩からなり、全体に不均質。偏平輝石(厚さ1~5mm)を伴う。下位との境界はほぼ平坦で不明瞭(10°)。89.61m以後は褐色を呈する。高角度割れ目(60~70°)主体。
18					凝灰質頁岩	緑灰					100	57	98		78.35	
19					凝灰質頁岩	緑灰					100	100	100		81.50	塊状の黒色頁岩。89.80mにφ20mmの炭化産物が見られる。
20					凝灰質頁岩	緑灰					100	54	100		83.35	
21					凝灰質頁岩	緑灰					100	76	100		84.35	
22					凝灰質頁岩	緑灰					100	73	100		85.61	
23					凝灰質頁岩	緑灰					100	70	90		86.61	
24					凝灰質頁岩	緑灰					100	72	92		87.61	
25					凝灰質頁岩	緑灰					100	100	100		88.61	
26					凝灰質頁岩	緑灰					100	54	100		89.61	
27					凝灰質頁岩	緑灰					100	76	100		90.61	
28					凝灰質頁岩	緑灰					100	73	100		91.61	
29					凝灰質頁岩	緑灰					100	56	92		92.61	
30	89.70	-43.30	1.94		凝灰岩	灰白					100	30	96		93.61	
31	86.50	-46.40	0.98		黒色頁岩	灰					100	30	96		94.61	



孔口標高		I.P. +43.80 m		掘進長		264.50 m		調査期間		1997年 8月 5日 ~ 1997年 10月 14日		試験機械		D2-K		
角度		—		方向		—		孔内水位		I.P. +3.50 m		孔内試験項目				
													孔内水平載荷・透水・岩石・三軸・PS検層(φ20・φ30)・J73-4・孔底			
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 土質岩柱長 砂質柱長 柱状図	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット J7チューブ	孔内試験 項目 深度(m)	記 事
90	50.00	-46.20	0.00													
1	51.51	-47.41	1.21		凝灰質頁岩						100	27	72			上層部で、90.50m以後より凝灰(15°)の発達する凝灰質頁岩。90.55~90.58mは石灰質な凝灰でφ1~6mm(最大10mm)の角礫状の方解石が点在。下位との境界は漸移し不明瞭。90.58m付近に傾り込みを伴う高角度の割れ目。90.15~90.53mで高角度(70°)割れ目発達。
3	51.57	-47.77	0.31		凝灰岩	灰					100	39	84			凝灰質頁岩。91.30m以後は凝灰(15°)の発達する凝灰質頁岩(15°)91.36~91.57m間凝灰質平板状粘土。厚さ12mm、傾斜15°。
3	51.91	-48.11	0.35		凝灰質頁岩	灰					100	39	84			塊状頁岩。92.11m, 92.58m, 92.91mに酸化鉄物を下部に伴う凝灰質な塊(20°)が見られ、92.99~93.13mには酸化鉄物を有する。凝灰質頁岩~凝灰岩が見られる。凝灰岩中には斜交葉理が認められる。下位との境界は漸移し不明瞭。層理と平行な低角度(4~7°)が割れ目に方解石を伴う高角度割れ目(60~90°)が認められる。
3	53.57	-49.77	1.68		黒色頁岩	黒灰					100	37	75			94.25m以後は層理(10°), 94.32~94.43mは層理(20°)が発達し、直下の頁岩との境界で葉理が斜交する。94.45~95.19mは塊状の頁岩~凝灰質頁岩で、94.70~94.90mにはφ1~10mmの流紋角礫を混入する。95.19~95.43mは層理(10°)が見られる。95.43~95.83mは乱地塊構造が顕著。95.83m以後は層理(15°)が見られ、96.13~96.15mに頁岩を挟む、下位との境界はほぼ垂直面を有し明瞭(10°)。所々に層理と平行な割れ目が発達。
6	55.24	-52.44	3.67		凝灰質頁岩	斑状凝灰岩					100	37	75			塊状黒色頁岩からなり、下部の数mの流紋角礫を多く混入する。層を有する部分では不規則に凝灰分を含む。下位との境界は明瞭で曲線を示す。96.61mに凝灰質を有する変質凝灰岩からなる酸化鉄物部。
7	57.08	-53.38	0.84		黒色頁岩	凝灰岩					100	34	65			凝灰質凝灰岩凝灰質頁岩。部分的に酸化鉄物(20°)。97.13~97.65mは乱地塊構造。97.70mにφ10mmの頁岩塊。97.73~97.79mに頁岩を挟み、φ10mmの流紋角礫。97.99mにφ1~10mmの石灰質角礫が混在。下位との境界は漸移し不明瞭。層理と平行な低角度割れ目が発達し、97.80~98.30mの高角度割れ目(70°)が密に傾り込みを伴う。98.58mに凝灰角礫割れ目が発達し、98.73mに凝灰質を伴う層理。
9	58.79	-54.59	1.71		凝灰質頁岩	層灰					100	55	80			99.04~99.19mに厚さ5mmの凝灰質を挟む。高角度割れ目発達。
9	59.30	-55.40	3.11		黒色頁岩	黒灰					100	40	87			凝灰質凝灰岩凝灰質頁岩からなり、101.30~101.53mに層理(15°)を有し部分的に乱地塊構造を示す。上層部は層理(15°)を有し、頁岩は塊状で下位との境界は漸移し不明瞭。凝灰質頁岩は層理発達部(15°)と塊状部からなり、101.58m以後は流紋角礫を混入する。φ1~6mm(最大20mm)の流紋角礫を101.25m以後、101.90mに混入し、100.25~100.25mは流紋角礫と凝灰が混在するのが見られる。層理と平行な低角度割れ目、4~7°が発達し、特に葉理発達部に集中。高角度割れ目も見られる。
100											100	40	92			
1											100	29	83			
2											100	28	83			
3											100	36	91			
4	104.07	-60.47	4.87		凝灰質頁岩						100	46	94			層理(15°)の発達した凝灰質凝灰岩主体で、104.32~104.26mに中粒凝灰岩を挟む。下位との境界は傾り込みを有し明瞭。104.09m, 104.18mに層理と平行な割れ目。
4	104.41	-60.81	0.34		凝灰岩	斑状凝灰岩					100	21	68			塊状頁岩主体。一部凝灰質頁岩。104.43~104.49m, 104.71mに凝灰質凝灰岩。104.47mに高角度割れ目に高角度割れ目を伴う高角度割れ目。凝灰質凝灰岩と凝灰質凝灰岩が混在する。105.10mに乱地塊構造。
5	105.01	-61.21	0.62		黒色頁岩	黒灰					100	21	68			106.07~106.84mに凝灰質頁岩(20°)。106.78mに酸化鉄物部
5	105.45	-61.65	0.41		凝灰質頁岩	凝灰岩					100	30	84			凝灰質凝灰岩で106.13~106.25mに酸化鉄物部。層理(15°)が発達し、106.25~106.44mにφ1~6mmの流紋角礫。凝灰質の塊~塊状部が混在。106.01mに高角度割れ目。106.65mに乱地塊。層理面と平行な割れ目が発達。
5	105.88	-62.08	0.43		黒色頁岩	黒灰					100	30	84			塊状頁岩からなり、106.91~106.97mに凝灰質頁岩を挟む。
6	109.87	-53.91	6.93		凝灰質頁岩	層灰					100	28	83			層理(15~20°)の発達する凝灰質頁岩主体で、一部凝灰質凝灰岩。黒色頁岩を挟む。107.42~107.46mに凝灰質凝灰岩で下位を一部傾り込む。
7	107.18	-52.36	6.35		黒色頁岩	黒灰					100	28	83			凝灰質凝灰岩からなり、107.93~107.97mに凝灰質頁岩。
7	107.81	-53.01	6.55		凝灰質頁岩	凝灰岩					100	66	86			層理(15~20°)がやや弱く見られる凝灰質凝灰岩主体で、割れ目(16cm)の黒色頁岩を挟む。この下位は傾り込み(20°)である。下位との境界はやや不明瞭(20°)。108.78~108.82mには凝灰質を伴った塊状部を混入し、高角度割れ目を伴う。109.02m付近に割れ目が発達し、凝灰質頁岩。15~20°の層理を有し、下位との境界は明瞭(15°)。109.39mに酸化鉄物を伴う石灰質凝灰岩が層状に分布。
8	108.14	-54.34	6.33		黒色頁岩	黒灰					100	40	72			やや不均質な凝灰質頁岩で、黒色頁岩を挟む。層理(15~25°)が発達する。110.00m以後は割れ目が密に発達し、凝灰質を伴った塊状部を混入する。下位との境界は明瞭で著しく急化する。110.48mに条線が見られ、金属光沢を有する黒色物質を混入。
9	105.17	-46.37	1.03		凝灰質頁岩	斑状凝灰岩					100	24	91			凝灰質凝灰岩凝灰質頁岩で、下部に凝灰質凝灰岩が不規則な形状で認められる。下部は層理(15~20°)が見られるが、不規則に波打つ。下位との境界はやや漸移し不明瞭。112.65mに条線。112.71mにφ1~10mmの扁平な石灰質粒子を混入する。
110	105.96	-48.16	0.79		黒色頁岩	黒灰					100	35	99			113.61mを境に2回の酸化鉄物を有する凝灰質凝灰岩。
1	110.47	-49.57	0.51		凝灰質頁岩	凝灰岩					100	26	73			20°の層理を有する頁岩。下位との境界は明瞭(20°)。114.25mにφ25mmの石灰質な塊。暗灰色な114.13~114.46mに石灰質な基質で認められる。層理と平行な低角度割れ目が発達。115.10~115.40mに高角度割れ目に方解石を伴う高角度割れ目。
2	112.40	-65.60	1.93		黒色頁岩	黒灰					100	30	100			115.45m以後は層理が発達し、層理と平行な割れ目が発達し、層理。
3	113.40	-63.60	1.00		凝灰質頁岩	凝灰岩					100	35	75			塊状の黒色頁岩からなり、部分的に凝灰質を伴う。116.15m付近、φ0.5~2mmの石灰質粒子と酸化鉄物が層状をなす。116.90mに酸化鉄物部で、60°の割れ目に沿って見られる。
4	113.73	-63.93	0.32		凝灰岩	層灰					100	43	80			層状の凝灰質凝灰岩よりなり、所々に凝灰質凝灰岩を伴った塊状部を混入する。全体酸化鉄物部で凝灰質土を挟み、下部のものは明瞭(30°)。
5	115.41	-71.41	1.62		黒色頁岩	黒灰					100	18	88			凝灰質凝灰岩と凝灰質凝灰岩が互層を形成。層理は傾斜20~30°。下位との境界は明瞭(10°)。117.81m以後は酸化鉄物部。118.54~118.55mに石灰質な凝灰質凝灰岩が見られ、傾斜で変形する。厚さ10mm、凝灰。
5	115.73	-71.73	3.32		凝灰質頁岩	凝灰岩					100	42	87			層理(15°)の発達する凝灰質凝灰岩で、所々に黒色頁岩が認められる。下位との境界は割れ目を伴い不明瞭。
6	117.04	-73.04	1.37		黒色頁岩	斑状凝灰岩					100	17	54			凝灰質凝灰岩を挟み、下部に凝灰質凝灰岩を伴う。118.00~119.58m間割れ目が発達し、層状。119.58mに石灰質凝灰質凝灰岩。厚さ3mm、傾斜20°
7	117.67	-73.67	0.67		凝灰質頁岩	凝灰岩					100					
8	118.60	-74.60	0.93		黒色頁岩	黒灰					100					
9	119.40	-75.40	0.80		凝灰質頁岩	凝灰岩					100					
120					黒色頁岩	黒灰					100					



No. 337 孔 (5/9)

孔口標高		T.P. +43.80 m		掘進長		264.50 m		調査期間		1997年 8月 5日 ~ 1997年 10月 14日		試験機軸		D2-K		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +13.50 m		孔内試験項目		孔内水平載荷・透水・岩石・二軸・PS試験(ゲラウキ)・P-T・孔曲		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	孔径ピット	孔内試験項目	記 事
120																
1	120.02	-58.82	0.62		黒色頁岩	黒灰	CH				100	20	68		ボアホールTV	泥質凝灰質頁岩主体で、一部凝灰質優勢。層厚は15°を示し、傾斜と平行な割れ目が見られる。下位部には3~10mmの石灰質な塊が混入。
2	121.17	-57.37	0.84		凝灰質頁岩	暗灰	CH				100	29	94			部分的に凝灰質頁岩を挟む(15°)。下位との境界は明確な平行な面をなす。121.49mにφ10mmの石灰質角塊。層厚と平行な低角度割れ目、ワカワカが発達。121.66mに層状酸化鉱物。
3	122.29	-56.45	1.06		黒色頁岩	黒灰	CH				100	30	69			厚層(15°)の発達した凝灰質頁岩。層厚とワカワカ割れ目発達。122.31mに厚さ10mm、15°で灰色中硬状粘土。層厚とワカワカをなす。122.01~123.04m間層状凝灰質。123.04mに灰色中硬状粘土(厚さ5mm、15°)。
4	123.04	-55.24	0.73		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	49	78			15~20°の層理を有する頁岩。凝灰質頁岩の挟み(厚さ2~20mm)が見られ、124.19~124.21mでは酸化層理を伴う。層理と平行な割れ目発達。123.97mに条線。
5	124.29	-54.43	1.23		黒色頁岩	黒灰	CH				100	50	89			124.37m以降は凝灰質頁岩と凝灰質頁岩の相互割れ目をなし、以て凝灰質頁岩への酸化を有する。15°の層理を有し、下位への閉り込み。
6	124.72	-54.02	0.43		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	27	77			凝灰質頁岩を主体とし、下部に灰色頁岩の相互割れ目をなし、下位との境界は傾斜状を示し(15°)。
7	125.23	-53.43	0.51		黒色頁岩	暗時灰	CH				100	27	77			下部部を占め、上部とは明確な境界面(表面)で2分。上部は凝灰質頁岩、下部と平行な割れ目が発達しやや傾斜。125.35~125.79m間石灰質粘土混入。乱層相を示す。125.83mに暗灰色中硬状粘土(厚さ3mm、15°)。
8	125.87	-52.97	0.54		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	23	87			凝灰質頁岩を主体とし下部に行くほど、層状になる酸化層理を伴う。126.65m付近からφ5~30mmの礫石が混入する。15°の層理が見られ、層理と平行な割れ目が見られる。
9	127.05	-52.23	0.83		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	53	90			中硬凝灰質頁岩に礫石が多く混入。127.15~127.33m、127.37~127.79m、127.92m以降は礫石をほとんど含まない。下位との境界は閉り込みを有し明確。127.83mに暗灰色中硬状粘土(厚さ3mm、10°)。
10	128.05	-51.27	1.02		火山凝灰岩	暗時灰	CM				100	54	91			酸化を有する凝灰質頁岩と凝灰質頁岩を伴う凝灰質頁岩の両方が主体。凝灰質頁岩を主体とし、φ2~10mmの礫石、暗時灰、灰質頁岩の両方混入を含む。128.67m以降は酸化層理をなし、128.87~129.06mに頁岩。
11	128.49	-51.03	0.53		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	27	67			塊状の頁岩からなり、部分的に凝灰質頁岩、酸化層理を伴う。129.31m以降は凝灰質を多少含む。一部不規則な層理を示す。下位との境界は層状不明瞭。割れ目は全体に低角度が上向きで、面に条線が見られる。129.21~129.25m間凝灰質頁岩。129.25~129.56m間φ2~10mmの石灰質角塊。129.54m付近は凝灰質の挟み(φ)で割れ目が密接し、層状。130.21~130.27m間、厚さ約10mmの礫石が混入し、不規則な割れ目をなす。131.08~131.59m間厚さ10mmの石灰質の挟み。乱層相構造が認められる。131.60~131.80m間高角度割れ目が発達し、131.85~131.89m間はφ5mmの石灰質角塊が層状(10°)をなす。132.47mに厚さ約5mmの層状酸化鉱物。
12	128.69	-51.03	0.53		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	27	67			131.95m以降は層理面(10°)と平行な割れ目が発達し、割れ目傾斜が部分的に傾斜(10°)。
13	129.12	-50.32	0.72		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	23	64			石灰質の挟みを有する頁岩で、132.95~133.15mに凝灰質を層状的に多く含む。下位との境界はやや傾斜(10°)。132.29~132.43mに割れ目が密接し、層状を示し、条線を伴う。132.39~132.81mに面状層理が認められる。
14	129.70	-50.32	0.72		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	25	65			泥分を含む頁岩で、下位との境界は傾斜(10°)。
15	130.00	-50.32	0.72		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	66	98			塊状頁岩。134.37mに厚さ0.5mm、40°の凝灰質の挟み。135.50mに厚さ5mm、30°の石灰質の挟みが見られる。下位との境界は層状不明瞭。134.50m付近、135.53mにφ2~8mmの石灰質の角塊が見られ、134.90~134.95mでは石灰質の灰色層の乱層相構造が認められる。
16	130.50	-50.32	0.72		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	49	91			層理(上位20°、下位30°)が発達し、境界付近で酸化層理を伴う凝灰質頁岩に層理。小規模な面状層理が136.09m、136.22m、136.34mに見られる。下位との境界は凹凸面を有し明確。
17	131.00	-49.11	1.72		黒色頁岩	黒灰	CH				100	18	59			塊状の頁岩を主体とし、138.13~138.97m、140.45m以降は凝灰質を多く含む。部分的に凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は明確でやや湾曲する。139.12~139.18m、139.38~139.49m、139.89~139.97m間は割れ目が発達し、層状。前者は層状を示す。また137.30mの割れ目には方解石の結晶を伴う。137.89~138.02mには酸化層理を伴う凝灰質頁岩~凝灰質頁岩が存在し、面状層理が認められる。138.40mにφ10mmの塊状酸化鉱物が存在する。138.34mには凝灰質頁岩層の面状層理及び閉り込みが認められる。140.40~140.60m、70~80°で湾曲する高角度割れ目が見られ、層状に傾斜を有する。140.96m、141.07mに高角度(60°)割れ目を介在する。
18	131.21	-48.41	0.89		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	35	49			泥分を不規則に多く混入する。141.30m以降は酸化層理を示す。
19	131.51	-48.71	1.29		黒色頁岩	黒灰	CH				100	31	67			塊状の黒色頁岩主体で、142.87m以降はやや凝灰質を含む。下位との境界は明確(70°)。141.60~142.03mは凝灰質の混入により、濃色と淡色がちりめん状をなす。142.40~142.80m付近は10~50°の割れ目がやや発達する。143.13mに条線が認められる。143.56m以降は僅かに凝灰質で70~80°の乱れた層理が認められる。
20	131.82	-48.09	0.88		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	34	52			凝灰質頁岩~凝灰質頁岩で頁岩優勢である。下位との境界は明確であり、143.70~144.00m間は長さの長い70~90°の明確な境界で下位の黒色頁岩と接し、下位を閉り込む乱層相の層理を示す。
21	132.39	-48.09	0.88		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	79	94			塊状頁岩からなり、145.10~145.17mに凝灰質頁岩。148.00~148.08mに凝灰質を挟む。144.65~144.83mは上位層の凝灰質と同じ層理を有する凝灰質で頁岩との境界は明確(60°)。下位との境界は明確(20°)。低~中角度割れ目が発達し、144.89~145.83mは割れ目面に条線を伴う。145.11m、146.00m、146.84m、146.97mに層状酸化鉱物が見られる。
22	132.89	-48.09	0.88		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	47	90			150.15m付近は比較的泥質優勢。149.46~151.13mにφ0.5~3mmの石灰質角~重角粒子を混入する。149.30~149.54m、150.13~151.30m、151.53m以降は顕著な乱層相構造を有し、152.63mでは面状層理が認められる。下位との境界は層状不明瞭。層理は上位で40~50°であるが下位では不明瞭。149.14~149.37mは灰色凝灰質頁岩を挟む頁岩からなり、149.25~149.28mに熱水変質を受けた褐色中硬状粘土を挟む。厚さ5mm、傾斜40°、やや頁岩で層状性がわずかに認められる。50~70°の方解石混入が多く見られ、これらに沿った高角度割れ目が発達し、150.48~150.67mは層状を示す。152.51~152.54mに厚さ3mmの面状層理の面状層理が認められる。
23	133.29	-48.09	0.88		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	27	47			
24	133.89	-48.09	0.88		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	31	66			
25	134.39	-48.09	0.88		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	100	100			
26	134.89	-48.09	0.88		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	30	73			
27	135.39	-48.09	0.88		凝灰質頁岩	暗時灰	CH				100	13	23			



No. 337 孔 (6/9)

孔口標高		T.P. +43.80 m		掘進長		264.50 m		調査期間		1997年 8月 5日 ~ 1997年 10月 14日		試錐機械		D2-K		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +3.50 m		孔内試験項目		孔内水平載荷・透水・岩石・三軸・PS検層(φ70)・φ75・φ90		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット コアチューブ	孔内試験 項目 深度 (m)	記 事
150																
1							C II				100	15	53			
2	152.63	-109.29	1.66		凝灰質頁岩	暗灰色	C II				100	18	56			
3	152.23	-109.49	0.61		凝灰岩	灰	C H				100	23	69			細粒凝灰岩よりなる。上部で20°下部で15°の層理を有し、152.26~153.10mは層理が発達し、面割れ層が顕著。下位との境界は明瞭(15°)。
4	154.17	-110.21	0.82		凝灰質頁岩・凝灰質頁岩互層	黒灰色	C M				100	19	55			5~15cm厚の黒色頁岩と2~10cm厚の凝灰質頁岩からなる互層。φ0.25~10mmの石炭質角礫を角礫状に含む。153.35m付近、153.58m付近に層理が発達し、凝灰質頁岩と頁岩との境界。凝灰質頁岩に割れ目が発達。
5							C H				100	27	60			155.24m厚ではφ0.25~2mmの石炭質角礫を角礫状に含む。上部は暗灰色の凝灰質頁岩が角礫をもち、下部は暗灰色の凝灰質頁岩が角礫をもち、155.24~156.47mは155.18mを境とする2層の層理構造。上層は、泥質に富むようになる。156.48~158.58mは泥質層でφ0.25~2mmの石炭質角礫を角礫状に含む。156.58~157.00mは黒色頁岩から凝灰質頁岩に漸移。157.00~157.90mは凝灰質頁岩で層理(20°)が部分的に発達。157.67mに厚さ25mmの定着な割れ目(15°)。157.90~158.28mは泥質層。158.28m以降は凝灰質頁岩で層理が発達し、乱層構造が顕著。下位へは漸移し不明瞭。方解石脈に伴う高角度(60~80°)割れ目が157.46m以後で見られる。
6							C M				100	21	54			
7							C II				100	31	62			
8							C II				100	51	83			
9	158.73	-114.92	4.56		凝灰質頁岩	灰	C II				100	27	96			粗粒凝灰岩主体で159.20~159.31mに層理を有し、層理(10°)が発達し、下位との境界は層理層状をなし不明瞭。158.81mに層理で容易に変形する灰色平状粘土を挟み、厚さ3mm、傾斜10°、傾斜性有り。層理と平行な割れ目が発達。
100	159.44	-115.64	0.71		凝灰岩	灰	C M				100	33	70			塊状の頁岩で凝灰質頁岩、凝灰岩の積み(15°)を有する。161.13m以降は凝灰質を多く含む。層理(15°)が全体に見られる。下位とは明瞭な層理構造を有する。層理と平行な割れ目が見られる。159.83~159.97mに暗灰色の凝灰質頁岩が認められる。159.90mに層理の傾斜性が見られる。151.03mに20×40mmの石炭質角礫。150.14~150.17mに粗粒凝灰岩が認められる。161.85~162.32mに2枚の粗粒凝灰岩が認められる。161.60mに厚さ15mmの割れ目が認められる。162.31~162.93mは割れ目が発達。
1							C II				100	52	81			
2							C M				100	47	96			
3	163.02	-119.23	0.58		黒色頁岩	黒灰	C M				100	60	89			φ0.25~4mm(最大15mm)の石炭質角礫を多く含む凝灰質頁岩。石炭質頁岩は163.45mに層理を有し、層理(15°)が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩からなる。15~20°の層理が発達し163.85mでは層理による傾斜の変化が見られる。下位との境界は平坦面をなし、明瞭(25°)。
4	163.85	-120.08	0.85		凝灰質頁岩	暗灰	C H				100	35	79			凝灰質を多く含む黒色頁岩。層理(20°)を有し、下位との境界は27°を有し、明瞭。164.69mに厚さ13mmの凝灰質頁岩が認められる。層理と平行な割れ目と高角度割れ目(60°、70°)が見られる。
5	164.97	-121.17	1.00		黒色頁岩	黒灰	C H				100	30	86			凝灰質を多く含む凝灰質頁岩で、165.81~165.88m、167.30mに層理が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩を多く含む。層理は不明瞭であるが部分的に15~25°を有する。165.07~165.28m間は層理の湾曲が著しい。φ0.25~3mm(最大10mm)の石炭質角礫が全体に認められる。165.95m付近に粗粒なものが認められる。下位との境界は平坦面を有し、明瞭(20°)。167.23~167.30mにφ約10mmの石炭質角礫。層理面と平行な割れ目が主体。
6							C H				100	58	92			
7	167.44	-123.64	2.47		凝灰質頁岩	暗灰	C M				100	37	92			凝灰質を多く含む凝灰質頁岩で、167.30mに層理が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩を多く含む。層理は不明瞭であるが部分的に15~25°を有する。165.07~165.28m間は層理の湾曲が著しい。φ0.25~3mm(最大10mm)の石炭質角礫が全体に認められる。165.95m付近に粗粒なものが認められる。下位との境界は平坦面を有し、明瞭(20°)。167.23~167.30mにφ約10mmの石炭質角礫。層理面と平行な割れ目が主体。
8							C H				100	35	81			
9							C M				100	49	90			
170							C M				100	59	62			
1							C H				100	51	100			
2	172.32	-128.52	4.88		黒色頁岩	黒灰	C H				100	74	100			凝灰質を多く含む凝灰質頁岩で、172.78mに層理が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩を多く含む。層理は不明瞭であるが部分的に15~25°を有する。165.07~165.28m間は層理の湾曲が著しい。φ0.25~3mm(最大10mm)の石炭質角礫が全体に認められる。165.95m付近に粗粒なものが認められる。下位との境界は平坦面を有し、明瞭(20°)。167.23~167.30mにφ約10mmの石炭質角礫。層理面と平行な割れ目が主体。
3	172.81	-129.03	0.51		凝灰質頁岩	暗灰	C H				100	27	91			凝灰質を多く含む凝灰質頁岩で、172.78mに層理が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩を多く含む。層理は不明瞭であるが部分的に15~25°を有する。165.07~165.28m間は層理の湾曲が著しい。φ0.25~3mm(最大10mm)の石炭質角礫が全体に認められる。165.95m付近に粗粒なものが認められる。下位との境界は平坦面を有し、明瞭(20°)。167.23~167.30mにφ約10mmの石炭質角礫。層理面と平行な割れ目が主体。
4							C H				100	44	100			凝灰質を多く含む凝灰質頁岩で、172.78mに層理が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩を多く含む。層理は不明瞭であるが部分的に15~25°を有する。165.07~165.28m間は層理の湾曲が著しい。φ0.25~3mm(最大10mm)の石炭質角礫が全体に認められる。165.95m付近に粗粒なものが認められる。下位との境界は平坦面を有し、明瞭(20°)。167.23~167.30mにφ約10mmの石炭質角礫。層理面と平行な割れ目が主体。
5							C H				100	24	89			凝灰質を多く含む凝灰質頁岩で、172.78mに層理が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩を多く含む。層理は不明瞭であるが部分的に15~25°を有する。165.07~165.28m間は層理の湾曲が著しい。φ0.25~3mm(最大10mm)の石炭質角礫が全体に認められる。165.95m付近に粗粒なものが認められる。下位との境界は平坦面を有し、明瞭(20°)。167.23~167.30mにφ約10mmの石炭質角礫。層理面と平行な割れ目が主体。
6							C H				100	19	90			凝灰質を多く含む凝灰質頁岩で、172.78mに層理が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩を多く含む。層理は不明瞭であるが部分的に15~25°を有する。165.07~165.28m間は層理の湾曲が著しい。φ0.25~3mm(最大10mm)の石炭質角礫が全体に認められる。165.95m付近に粗粒なものが認められる。下位との境界は平坦面を有し、明瞭(20°)。167.23~167.30mにφ約10mmの石炭質角礫。層理面と平行な割れ目が主体。
7							C M				100	18	71			凝灰質を多く含む凝灰質頁岩で、172.78mに層理が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩を多く含む。層理は不明瞭であるが部分的に15~25°を有する。165.07~165.28m間は層理の湾曲が著しい。φ0.25~3mm(最大10mm)の石炭質角礫が全体に認められる。165.95m付近に粗粒なものが認められる。下位との境界は平坦面を有し、明瞭(20°)。167.23~167.30mにφ約10mmの石炭質角礫。層理面と平行な割れ目が主体。
8							C M				100	33	76			凝灰質を多く含む凝灰質頁岩で、172.78mに層理が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩を多く含む。層理は不明瞭であるが部分的に15~25°を有する。165.07~165.28m間は層理の湾曲が著しい。φ0.25~3mm(最大10mm)の石炭質角礫が全体に認められる。165.95m付近に粗粒なものが認められる。下位との境界は平坦面を有し、明瞭(20°)。167.23~167.30mにφ約10mmの石炭質角礫。層理面と平行な割れ目が主体。
9							C II				100	43	87			凝灰質を多く含む凝灰質頁岩で、172.78mに層理が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩を多く含む。層理は不明瞭であるが部分的に15~25°を有する。165.07~165.28m間は層理の湾曲が著しい。φ0.25~3mm(最大10mm)の石炭質角礫が全体に認められる。165.95m付近に粗粒なものが認められる。下位との境界は平坦面を有し、明瞭(20°)。167.23~167.30mにφ約10mmの石炭質角礫。層理面と平行な割れ目が主体。
180							C II				100	37	91			凝灰質を多く含む凝灰質頁岩で、172.78mに層理が発達し、やや鋭角な粗粒凝灰岩を多く含む。層理は不明瞭であるが部分的に15~25°を有する。165.07~165.28m間は層理の湾曲が著しい。φ0.25~3mm(最大10mm)の石炭質角礫が全体に認められる。165.95m付近に粗粒なものが認められる。下位との境界は平坦面を有し、明瞭(20°)。167.23~167.30mにφ約10mmの石炭質角礫。層理面と平行な割れ目が主体。



No. 337 孔 (7/9)

孔口標高		T.P. +43.80 m		掘進長		264.50 m		調査期間		1997年 8月 5日 ~ 1997年 10月 14日		試錐機械		D2-K		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +3.50 m		孔内試験項目		孔内水平載荷・透水・岩石・三軸・PS検層(9'・12)・φ75・φ孔曲		
標尺 (m)	深 度 (m)	標 高 T.P. (m)	層 厚 (m)	柱 状 図	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状 土質層短柱長 砂片片柱 柱 状状状状状状	割 れ 目 状 態	風 化 程 度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	孔径 ビット コアチップ	孔内試験 項目 深度 (m)	記 事
180																
1											100	32	88			
2	181.41	-128.85	0.43		黒色頁岩	黒灰					100	40	90			182.58m以後は粗粒凝灰岩を主体とし、以ては泥分主体と凝灰分主体の交互層を呈す。約20°の稜角を有し、下位との境界は明瞭で入り組んでいる。182.59m, 182.69mに乱堆積構造が見られる。
3	182.63	-123.06	0.43		凝灰質頁岩	暗灰					100	31	73			φ2~10mmの流紋岩、安山岩、頁岩の角~歪円礫を含み、基質は凝灰分主体であるが、下部ほど次第に泥分を含み、189.02m以下は泥分主体となる。含有する黒色頁岩礫は不定形~塊状で、下部層々に挟み込まれる。183.70~183.86m間短柱状。185.68m付近以後は比較的粗粒を主体とする。190.11~190.33m間花崗質凝灰質頁岩。全体に強度的に弱い偏平軽石に起因する低角度割れ目(0~10°)が見られる。
4											100	54	84			
5											100	50	100			
6											100	100	100			
7											100	84	100			
8											100	91	91			
9											100	64	100			
190	180.52	-148.37	7.51		火山凝灰岩						100	80	100			
1											100	48	93			基質は凝灰分主体で、泥分を少量含む。礫はφ5~50mm(最大11cm)の流紋岩、安山岩、玄武岩、頁岩の角~歪円礫、偏平軽石礫からなる。下位へは191.70m付近から平均礫径が小さくなり始め、下位層へ漸移する。礫の配列に影響を受けた不規則な割れ目が見られる。
2	181.81	-148.27	1.30		凝灰質頁岩	暗灰					100	57	91			192.77m以後はφ2~15mmの流紋岩、玄武岩、安山岩の角~歪円礫、偏平軽石を主体とし、基質に泥分を含む。以てはφ5~20mm(最大30mm)の流紋岩、玄武岩、安山岩の角~歪円礫、偏平軽石を主体とし、基質に泥分をあまり含まない。また、礫の占める割合が高い。下位との境界は礫が閉り込んで一部は入り組んでおり、明瞭な境界を有する。192.70m付近に方解石を割れ目面に伴う高角度割れ目(70°)が見られる。
3											100	70	100			
4	182.75	-148.34	1.88		火山凝灰岩	暗灰白灰					100	53	81			全体に礫に凝灰分を含む黒色頁岩を主体とし、195.93m以降は凝灰分を多く含む。φ0.2~3mmの円~楕円の石灰質砂子を混入する。下位との境界は明瞭(3°)。上位層の193.68~193.88m間短柱状。194.79~194.97m間石灰質砂子が凝集する。
5											100	24	81			所々部分を順次に混入する凝灰質頁岩からなり、φ0.2~3mmの石灰質砂子が散在する。礫径が15~20°に見られる。下位との境界は漸移し不明瞭。196.19~196.28m間石灰質砂子が凝集し、一部の礫影がぼやけている。
6	186.18	-132.28	2.49		黒色頁岩	黒灰					100	53	95			塊状黒色頁岩。下位との境界は平坦面をなし明瞭(20°)。20°の割れ目を有する。
7	186.36	-132.16	0.78		凝灰質頁岩	暗灰					100	49	100			上位の頁岩と下位の凝灰岩との境界。70°の稜角を有し、基質と平行な低角度割れ目が見られる。下位との境界は漸移し不明瞭。
8	188.20	-134.25	1.05		黒色頁岩	黒灰					100	52	97			粗~中粒凝灰岩主体。稜角(20°)が発達し、凝灰岩と粗粒凝灰岩とで交互層をなす。下位との境界は平坦面をなし明瞭。
9	188.44	-134.64	0.44		凝灰質頁岩	暗灰					100	79	92			
300	188.85	-135.15	1.51		凝灰岩	暗灰白灰					100	74	100			基質はやや泥質な粗~粗粒凝灰岩からなり、φ2~5mmの流紋岩礫を含む。下位との境界は交互状を呈し不明瞭。200.70~200.73mに最大厚35mmの緑色軽石礫。
1	201.54	-137.26	1.11		火山凝灰岩	暗灰白灰					100	60	100			201.54~201.58m間粗粒。以ては粗粒。以ては中粒凝灰岩。
2	201.57	-137.22	0.44		凝灰岩	灰					100	71	100			やや泥分を含む粗~粗粒凝灰岩を基質とし、φ2~20mm(最大35mm)の流紋岩、安山岩、玄武岩、の角~歪角、軽石の偏平礫(厚さ1~70mm)を含む。
3											100	76	100			202.50m以後、204.96~206.27mは偏平軽石とφ10mmを超える礫をほとんど含まない。
4											100	78	99			206.90~208.50mは偏平軽石が凝集している。軽石は概ね0~20°の平板状の形態を示す。下位層とは漸移し明瞭な境界を持たない。207.05m以後で基質の泥分が増加する。偏平軽石に起因する低角度割れ目(0~20°)が見られる。
5											100	89	100			
6											100	83	100			
7											100	76	100			
8											100	100	100			
9											100	81	100			
210	209.97	-136.12	5.45		火山凝灰岩	暗灰白灰					100	76	100			



No. 337 孔 (8/9)

孔口標高		T.P. +43.80 m		掘進長		264.50 m		調査期間		1997年 8月 5日 ~ 1997年 10月 14日		試験機械		D2-K		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +3.50 m		孔内試験項目		孔内水平載荷・透水・岩石・三軸・PS検査(ワ)・X・Z・T・孔曲		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径	孔内試験項目	記 事
210																
1	211.44	162.34	1.44		凝灰角礫岩		C II				100	59	100		ホアホールTV	基質は泥質でφ4~30mm(最大70mm)の流紋岩、玄武岩、安山岩、緑色凝灰岩の角~亜角礫からなる。下位との境界は明瞭。210.41mに厚さ5mmの頁岩層を挟む(傾斜30°)。
2					火山礫凝灰岩		C II				100	34	100		PS検査(ダウンホール)	基質に泥分が多くφ4~20mmの流紋岩、玄武岩、安山岩の角~亜角礫、偏平軽石礫からなる。212.37~212.69mは偏平礫が少なくφ10mm以下の礫が多い。下位へは漸移する。偏平軽石は10~20°の方向性を示す。
3	213.19	169.39	1.33		凝灰角礫岩		C II				100	73	100		透水試験	基質に泥分を含み、φ4~40mmの流紋岩、玄武岩、安山岩の角~亜角礫が主体で、偏平軽石礫がわずかに見られる。213.95m以下ではφ40mmを越す礫は見られない。下位との境界は明瞭であるが、φ5~20mmの礫が下位層内にも見られる。214.60~215.03mに偏平軽石がやや多い。
4					凝灰角礫岩		C II				100	77	100			215.43m以後は30°の割れ目の発達する黒色頁岩。厚層(30°)。
5	215.32	121.52	2.13		凝灰角礫岩		C II				100	100	100			215.19m以後は凝灰岩を伴った黒色頁岩で、一部に凝灰質頁岩を挟む。215.44m以後は塊状な頁岩よりなる。下位との境界は明瞭。215.73~215.76m間φ2mmの石灰質粒子を伴った凝灰質な塊状。214.58~215.13m間φ1~3mmの片状の石灰質粒子を伴った凝灰質な塊状の頁岩の層。
6	215.78	121.98	0.45		凝灰質頁岩		C II				100	33	89			凝灰(20°)を有し、泥分凝灰岩と凝灰質頁岩とが互層状をなし、それぞれが一部で頁岩と凝灰岩に移行する。下位層へ漸移し、明瞭な境界を有しない。φ4mm以下の石灰質な偏平粒子が混入し、215.03mに帯状に凝集。層理と平行な割れ目が発達する。217.20m以後、217.72~217.83mに乱地傾面が見られる。
7	216.83	113.03	1.05		凝灰質頁岩		C II				100	52	73			層~中粒凝灰岩を主体とし、215.03m以後は凝灰質頁岩を伴う。基質(20°)が発達。下位との境界は明瞭。215.85m以後は乱地傾面が見られる。
8	216.76	113.96	1.59		凝灰質頁岩		C II				100	41	75			基質に泥分を含み、φ2~25mm(最大40mm)の流紋岩、玄武岩、安山岩、頁岩の角~亜角礫、偏平軽石礫を含む。219.85~219.87mに偏平軽石礫が見られる。219.62m以後は凝灰質。下位との境界は漸移し不明瞭。
9	216.35	115.65	0.49		凝灰質頁岩		C II				100	59	80			基質に泥分を含み、φ5~30mmの流紋岩、玄武岩、安山岩、頁岩の角~亜角礫、緑色偏平軽石礫を含む。下位との境界は明瞭(20°)。局所的に層~中粒凝灰岩。211.28m以後はφ5mm以下の流紋岩正角礫が凝集。
220	220.38	116.58	1.12		火山礫凝灰岩		C II				100	78	100			基質に泥分を含み、φ2~10mm(最大50mm)の流紋岩の角~亜角礫からなり、頁岩も混入する。211.57m、211.75~211.82m、212.32m以後は層理と平行な割れ目状を有する凝灰質な塊状が見られ、割れ目が傾斜(20°)。下位との境界は凹凸面を有し明瞭(20°)。
1	221.68	117.28	0.73		凝灰角礫岩		C II				100	30	100			221.70m以後は頁岩。211.73~212.30m凝灰質頁岩。213.90m凝灰岩層~中粒凝灰岩よりなる。それぞれの境界は明瞭(20°)との境界は明瞭(20°)。
2	221.88	117.58	0.59		凝灰質頁岩		C II				100	65	91			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
3	223.48	119.52	1.11		火山礫凝灰岩		C II				100	28	61			227.70m以後は頁岩。211.73~212.30m凝灰質頁岩。213.90m凝灰岩層~中粒凝灰岩よりなる。それぞれの境界は明瞭(20°)との境界は明瞭(20°)。
4	223.65	119.25	0.58		凝灰質頁岩		C II				100	28	61			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
5					凝灰質頁岩		C II				100	19	46			227.70m以後は頁岩。211.73~212.30m凝灰質頁岩。213.90m凝灰岩層~中粒凝灰岩よりなる。それぞれの境界は明瞭(20°)との境界は明瞭(20°)。
6					凝灰質頁岩		C II				100	37	92			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
7	227.42	183.25	4.87		黒色頁岩		C II				100	59	93			227.70m以後は頁岩。211.73~212.30m凝灰質頁岩。213.90m凝灰岩層~中粒凝灰岩よりなる。それぞれの境界は明瞭(20°)との境界は明瞭(20°)。
8	227.85	181.94	0.42		凝灰質頁岩		C II				100	35	94			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
9					凝灰質頁岩		C II				100	63	91			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
250					凝灰質頁岩		C II				100	37	75			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
1					凝灰質頁岩		C II				100	29	86			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
2					凝灰質頁岩		C II				100	26	82			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
3					凝灰質頁岩		C II				100	14	29			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
4					凝灰質頁岩		C II				100	35	81			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
5					凝灰質頁岩		C II				100	24	39			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
6					凝灰質頁岩		C II				100	25	61			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
7					凝灰質頁岩		C II				100	38	65			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
8	227.51	192.76	9.72		黒色頁岩		C II				100	37	62			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
9	228.05	194.25	0.48		凝灰質頁岩		C II				100	37	62			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
	228.45	194.65	0.44		凝灰質頁岩		C II				100	37	62			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
	228.97	193.17	0.52		凝灰質頁岩		C II				100	19	59			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。
240					黒色頁岩		C II				100	21	21			20~30°の層理、層理を有する頁岩で、224.85~226.00m間に凝灰質を混入し、全体に不規則な形状で分布する。又一部に細粒凝灰岩、凝灰質頁岩を挟む。下位との境界は凹凸面をなし明瞭(30°)。224.15~224.33mに粗粒凝灰岩を挟む。223.94m、224.48m、224.59m、227.00m付近に見られるφ2mm以下の石灰質粒子を伴った凝灰質頁岩を同一層とする繰り返しが見られる。224.50~224.93mは割れ目が発達し、そのうち224.50m付近、224.87~224.93m間層片状。225.67m以下はφ0.25~1.0mmに石灰質な偏平粒子が認められる。225.55~226.59m、226.96~227.03m、227.25~227.29mに凝灰質な塊状が見られる。226.59m以後はφ1.5mm以下の石灰質な偏平粒子が混在する。

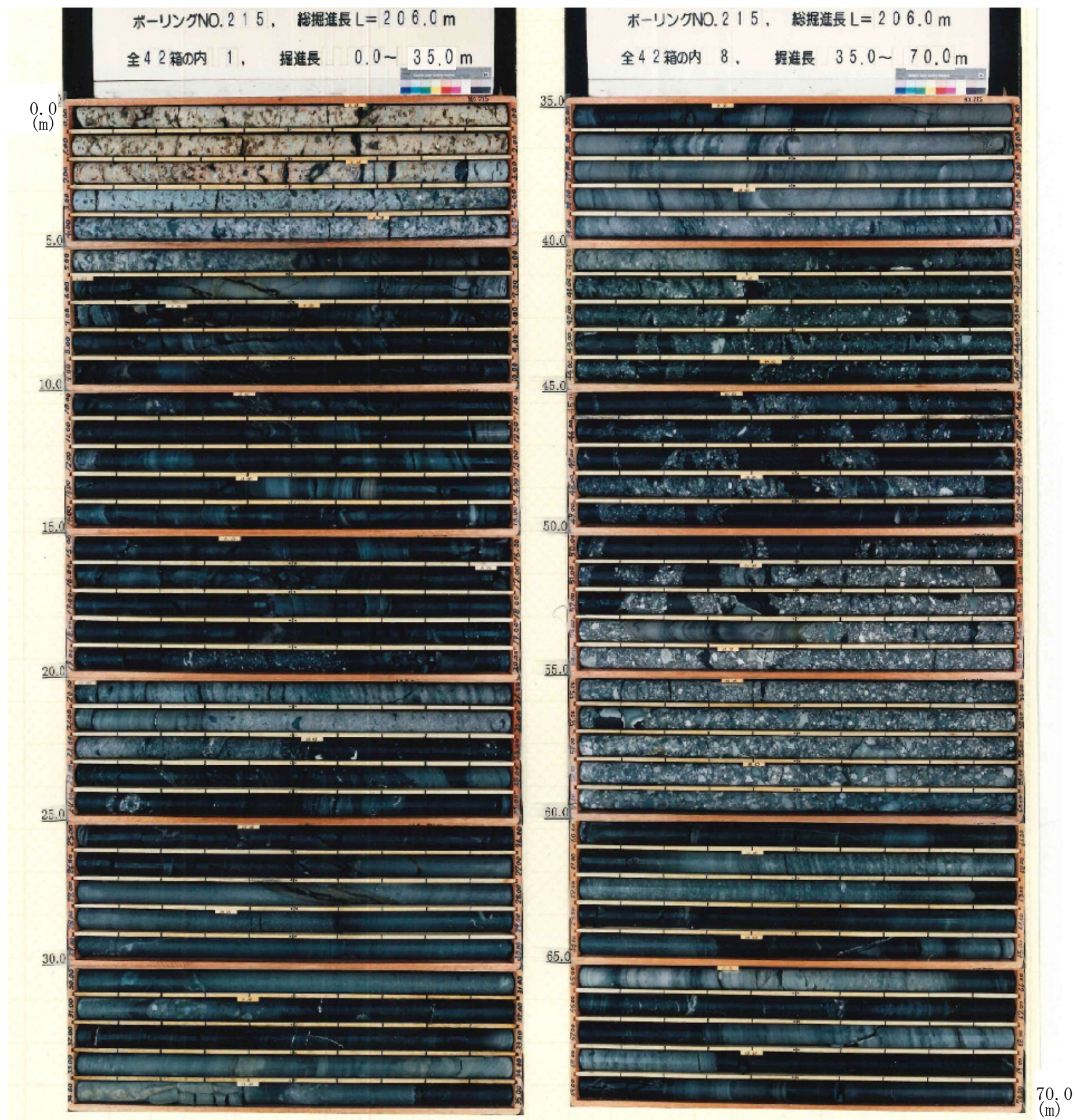


No. 337 孔 (9/9)

孔口標高		T.P. +43.80 m		掘進長		264.50 m		調査期間		1997年 8月 5日 ~ 1997年 10月 14日		試験機械		D2-K				
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +3.50 m		孔内試験項目		孔内水平載荷・透水・岩石・三軸・PS検査(ウ・ウ)・φ70-R・孔底				
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質類別	色調	岩級区分	コア形状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット	37チップ	孔内試験項目 (m)	記 事	
240																		
1							C <sub>1</sub>				100	9	0					
2	242.57	-158.77	2.57		黒色頁岩		C <sub>1</sub>				100	28	46				240.58~240.55m, 241.48~241.50mに細粒凝灰岩を挟み、241.55m以降は凝灰岩をわずかに含む。全体に割れ目と平行な割れ目が発達し、240.45m以後、241.52m以降は割れ目をなす。特に239.77mは厚さ6mmにわたり、層理と平行に割れ目化している。241.19~241.35mは層理と垂直な不規則な割れ目が見られ、割れ目で容易に剥離する。厚さ4mm、枚数65。この割れ目によって粒状凝灰岩が見られる。239.33~239.73mの凝灰岩は239.68mで層理面と平行に広がる。下位との境界は割れ目(25°)をなす。	
3							C <sub>2</sub>				100	46	56				241.35~241.32m, 242.49~242.56m	241.35
4							C <sub>2</sub>				100	37	61				242.56~242.53m, 243.88~243.90m	242.56
5	245.27	-201.47	2.76		凝灰質頁岩	暗灰	C <sub>2</sub>				100	24	73				243.90~243.85mは層理面を主体とし、黒色頁岩と凝灰岩を挟み、15°の割れ目が発達するが、塊状部分も認められる。下位との境界は半面割れ目、明瞭(25°)。層理と平行な割れ目が発達し、特に243.49~243.85mは層理面をなす。244.76~244.91mは25°~70°の割れ目が見られる。243.89~243.96mは粒化凝灰岩を伴う凝灰質頁岩、243.43~243.68mは黒色頁岩からなり、これは層理と平行に層理で厚さ2.5mmの層理面を伴う。245.81mに凝灰岩、244.13mに厚さ4mmの凝灰岩が層理の傾向を有する。244.10m付近以降で約70°の単色の粒状凝灰岩が認められる。	
6							C <sub>2</sub>				100	48	90				243.96~243.93m, 245.86~245.86m	243.96
7	247.50	-238.70	2.23		黒色頁岩		C <sub>3</sub>				100	50	50				245.86~245.83m, 247.47~247.47m	245.86
8	248.73	-224.93	1.23		凝灰質頁岩	暗灰	C <sub>2</sub>				100	25	77				247.47~247.44m, 247.88~247.88m	247.47
9	248.30	-226.56	0.57		黒色頁岩	黒灰	C <sub>3</sub>				100	34	92				247.88~247.85m, 248.30~248.30m	247.88
250	250.58	-226.56	1.53		凝灰質頁岩	暗灰	C <sub>2</sub>				100	48	87				248.30~248.27m, 249.03~249.03m	248.30
	250.24	-226.94	0.21		凝灰質頁岩	暗灰	C <sub>2</sub>				100	38	90				249.03~249.00m, 249.51~249.51m	249.03
1							C <sub>11</sub>				100	39	99				249.51~249.50m, 250.58~250.58m	249.51
2							C <sub>11</sub>				100	34	100				250.58~250.55m, 251.50~251.50m	250.58
3							C <sub>11</sub>				100	31	71				251.50~251.47m, 252.50~252.50m	251.50
4							C <sub>11</sub>				100	40	84				252.50~252.47m, 253.50~253.50m	252.50
5							C <sub>11</sub>				100	40	84				253.50~253.47m, 254.50~254.50m	253.50
6							C <sub>11</sub>				100	31	68				254.50~254.47m, 255.50~255.50m	254.50
7							C <sub>11</sub>				100	34	90				255.50~255.47m, 256.50~256.50m	255.50
8							C <sub>11</sub>				100	29	93				256.50~256.47m, 257.50~257.50m	256.50
9	258.58	-214.70	1.76		黒色頁岩		C <sub>11</sub>				100	44	85				257.50~257.47m, 258.58~258.58m	257.50
260	260.82	-217.92	2.62		火山礫凝灰岩	灰白	C <sub>11</sub>				100	54	99				258.58~258.55m, 259.87~259.87m	258.58
1							C <sub>11</sub>				100	64	35				259.87~259.84m, 260.82~260.82m	259.87
2							C <sub>11</sub>				100	27	70				260.82~260.79m, 261.82~261.82m	260.82
3							C <sub>11</sub>				100	41	84				261.82~261.79m, 262.82~262.82m	261.82
4	263.30	-220.10	3.08		凝灰岩	帯緑灰	C <sub>11</sub>				100	71	89				262.82~262.79m, 263.30~263.30m	262.82
5	264.50	-220.70	0.50		凝灰岩	緑灰	C <sub>11</sub>				100	44	85				263.30~263.27m, 264.50~264.50m	263.30
260							C <sub>11</sub>				100	54	99				264.50~264.47m, 265.50~265.50m	264.50
1							C <sub>11</sub>				100	64	35				265.50~265.47m, 266.50~266.50m	265.50
2							C <sub>11</sub>				100	27	70				266.50~266.47m, 267.50~267.50m	266.50
3							C <sub>11</sub>				100	41	84				267.50~267.47m, 268.50~268.50m	267.50
4	263.30	-220.10	3.08		凝灰岩	帯緑灰	C <sub>11</sub>				100	71	89				268.50~268.47m, 269.50~269.50m	268.50
5	264.50	-220.70	0.50		凝灰岩	緑灰	C <sub>11</sub>				100	44	85				269.50~269.47m, 270.50~270.50m	269.50
260							C <sub>11</sub>				100	54	99				270.50~270.47m, 271.50~271.50m	270.50
1							C <sub>11</sub>				100	64	35				271.50~271.47m, 272.50~272.50m	271.50
2							C <sub>11</sub>				100	27	70				272.50~272.47m, 273.50~273.50m	272.50
3							C <sub>11</sub>				100	41	84				273.50~273.47m, 274.50~274.50m	273.50
4	263.30	-220.10	3.08		凝灰岩	帯緑灰	C <sub>11</sub>				100	71	89				274.50~274.47m, 275.50~275.50m	274.50
5	264.50	-220.70	0.50		凝灰岩	緑灰	C <sub>11</sub>				100	44	85				275.50~275.47m, 276.50~276.50m	275.50
260							C <sub>11</sub>				100	54	99				276.50~276.47m, 277.50~277.50m	276.50
1							C <sub>11</sub>				100	64	35				277.50~277.47m, 278.50~278.50m	277.50
2							C <sub>11</sub>				100	27	70				278.50~278.47m, 279.50~279.50m	278.50
3							C <sub>11</sub>				100	41	84				279.50~279.47m, 280.50~280.50m	279.50
4	263.30	-220.10	3.08		凝灰岩	帯緑灰	C <sub>11</sub>				100	71	89				280.50~280.47m, 281.50~281.50m	280.50
5	264.50	-220.70	0.50		凝灰岩	緑灰	C <sub>11</sub>				100	44	85				281.50~281.47m, 282.50~282.50m	281.50
260							C <sub>11</sub>				100	54	99				282.50~282.47m, 283.50~283.50m	282.50
1							C <sub>11</sub>				100	64	35				283.50~283.47m, 284.50~284.50m	283.50
2							C <sub>11</sub>				100	27	70				284.50~284.47m, 285.50~285.50m	284.50
3							C <sub>11</sub>				100	41	84				285.50~285.47m, 286.50~286.50m	285.50
4	263.30	-220.10	3.08		凝灰岩	帯緑灰	C <sub>11</sub>				100	71	89				286.50~286.47m, 287.50~287.50m	286.50
5	264.50	-220.70	0.50		凝灰岩	緑灰	C <sub>11</sub>				100	44	85				287.50~287.47m, 288.50~288.50m	287.50
260							C <sub>11</sub>				100	54	99				288.50~288.47m, 289.50~289.50m	288.50
1							C <sub>11</sub>				100	64	35				289.50~289.47m, 290.50~290.50m	289.50
2							C <sub>11</sub>				100	27	70				290.50~290.47m, 291.50~291.50m	290.50
3							C <sub>11</sub>				100	41	84				291.50~291.47m, 292.50~292.50m	291.50
4	263.30	-220.10	3.08		凝灰岩	帯緑灰	C <sub>11</sub>				100	71	89				292.50~292.47m, 293.50~293.50m	292.50
5	264.50	-220.70	0.50		凝灰岩	緑灰	C <sub>11</sub>				100	44	85				293.50~293.47m, 294.50~294.50m	293.50
260							C <sub>11</sub>				100	54	99				294.50~294.47m, 295.50~295.50m	294.50
1							C <sub>11</sub>				100	64	35				295.50~295.47m, 296.50~296.50m	295.50
2							C <sub>11</sub>				100	27	70				296.50~296.47m, 297.50~297.50m	296.50
3							C <sub>11</sub>				100	41	84				297.50~297.47m, 298.50~298.50m	297.50
4	263.30	-220.10	3.08		凝灰岩	帯緑灰	C <sub>11</sub>				100	71	89				298.50~298.47m, 299.50~299.50m	298.50
5	264.50	-220.70	0.50		凝灰岩	緑灰	C <sub>11</sub>				100	44	85				299.50~299.47m, 300.50~300.50m	299.50
260							C <sub>11</sub>				100	54	99				300.50~300.47m, 301.50~301.50m	300.50
1							C <sub>11</sub>				100	64	35				301.50~301.47m, 302.50~302.50m	301.50
2							C <sub>11</sub>				100	27	70				302.50~302.47m, 303.50~303.50m	302.50
3							C <sub>11</sub>				100	41	84				303.50~303.47m, 304.50~304.50m	303.50
4	263.30	-220.10	3.08		凝灰岩	帯緑灰	C <sub>11</sub>				100	71	89				304.50~304.47m, 305.50~305.50m	304.50
5																		

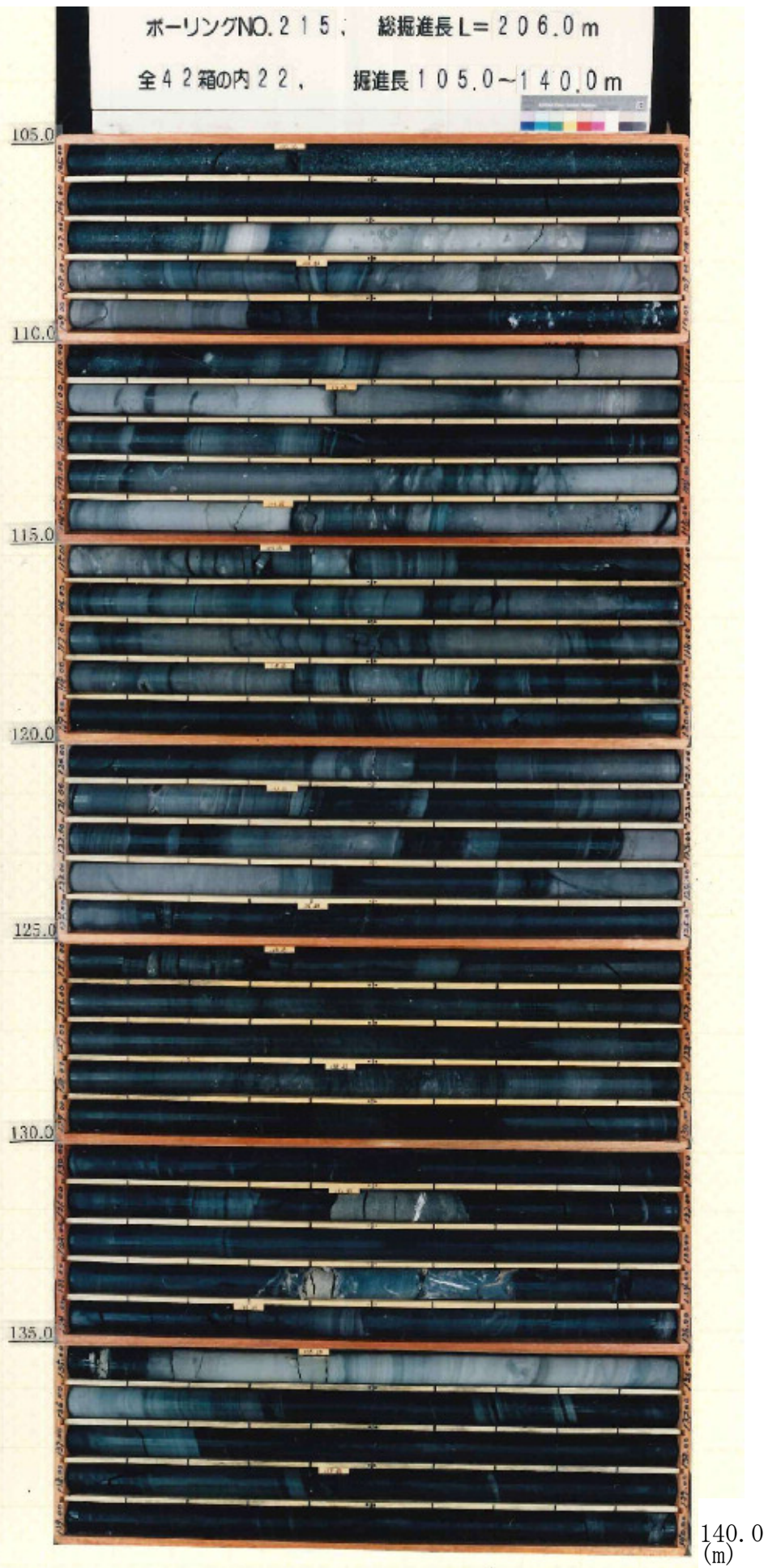


No. 215 孔 (1/3)



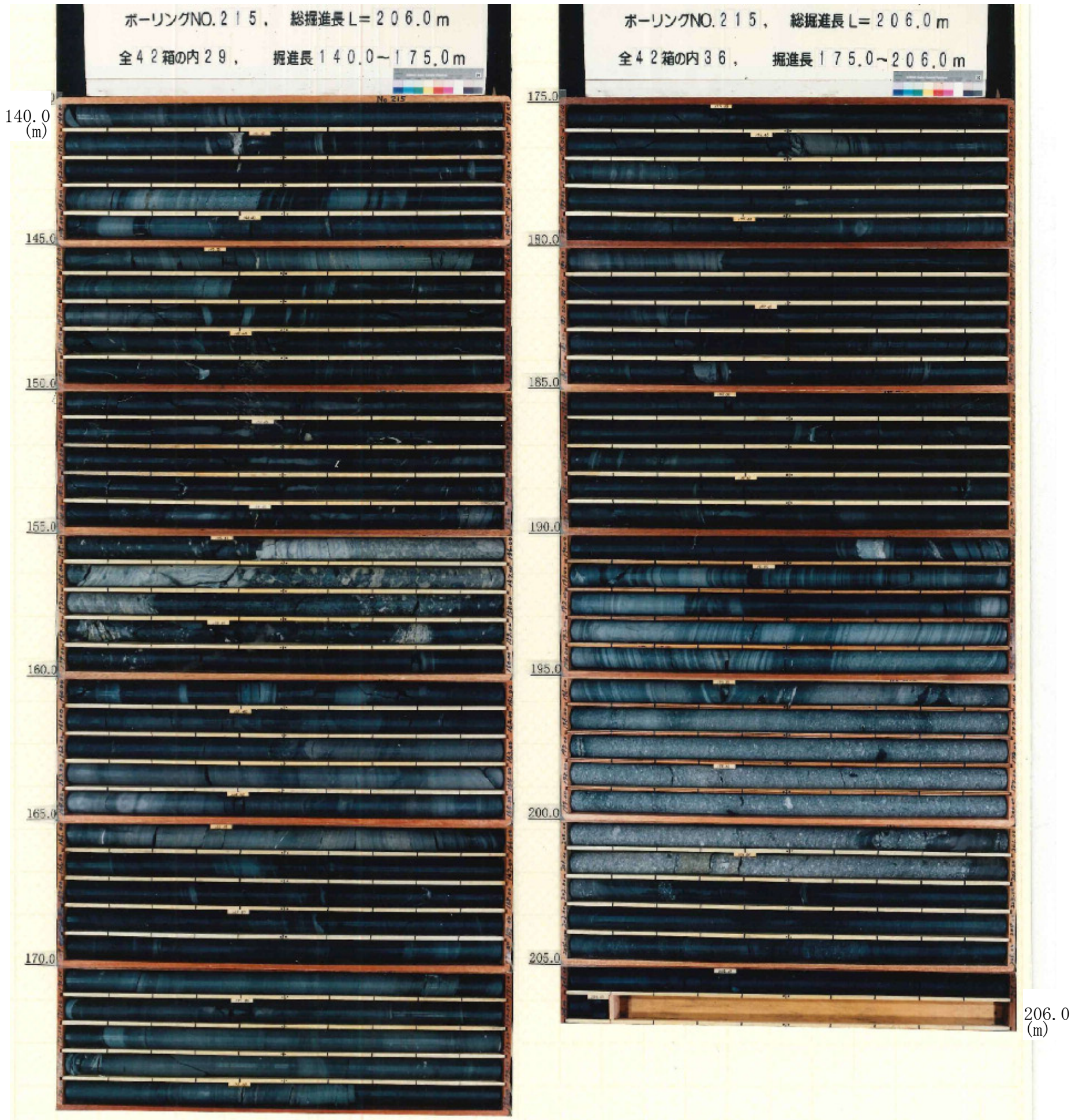


No. 215 孔 (2/3)





No. 215 孔 (3/3)





No. 215 孔 (1/7)

孔口標高		T.P. +5.36 m		掘進長		206.00 m		調査期間		1998年 5月 25日 ~ 1998年 7月 16日		試錐機械		YBM-3JR		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +0.84 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・透水試験・PS検層(サスペンション)・3'75・4'孔内試験		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 土岩相柱状 砂質柱状 伏状柱状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット J7チューブ	孔内試験 項目 深度 (m)	記事
0																
1																
2																
3																
4																
5																
6	5.32	-0.16	5.32		火山礫凝灰岩	雑炭灰										
7	5.20	-0.84	0.88		黒色頁岩	黒灰										
8	7.06	-1.70	0.86		凝灰質頁岩	灰										
9	8.14	-2.78	1.06		黒色頁岩	黒灰										
10	8.61	-3.55	0.47		凝灰質頁岩	暗灰										
11																
12	11.98	-6.64	3.25		黒色頁岩	黒灰										
13	12.28	-6.92	0.36		凝灰質頁岩	濃灰										
14																
15	13.95	-8.39	1.67		黒色頁岩	黒灰										
16	14.28	-8.02	0.43		凝灰質頁岩	濃灰										
17																
18																
19																
20	18.98	-14.92	5.60		黒色頁岩	黒灰										
21																
22	22.47	-17.11	3.49		凝灰岩	灰										
23																
24																
25																
26	26.64	-11.28	4.17		黒色頁岩	黒灰										
27																
28																
29																
30																



No. 215 孔 (2/7)

孔口標高		T.P. +5.36 m		掘進長		206.00 m		調査期間		1998年 5月 25日 ~ 1998年 7月 16日		試錐機械		YBM-3JR		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +0.84 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・透水試験・PS検層(サバクシヨウ)・ボアホールTV・孔内試験		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 土岩類柱状 砂片柱状 塊状柱状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット コアチップ	孔内試験 項目 深度 (m)	記事
30																
1	31.47	-26.11	1.47		凝灰岩	濃灰	CH				100	100	100			
2						黒灰					100	43	100			10°に凝灰質頁岩を多数挟む。下部50cmは凝灰分を不規則にやや層状に混入する。下位との境界は漸移し不明瞭。31.66mにはφ45mmの花崗岩質の礫を伴う。31.82m, 32.05mには、それぞれ厚さ10mm, 5mmの方解石脈を伴った割れ目を介在する。32.75~32.90m間では葉理に沿った割れ目が発達する。
3	32.53	-27.63	1.46		黒色頁岩	暗灰					100	46	68			粗~細粒凝灰岩。33.36m以下は上方細粒化を示す。下位の地層との境界は多少凹凸を有するもの、ほぼ10°で明瞭である。33.87~34.00m間には70°の割れ目を介在し、割れ目に沿って強く酸化汚染を被る。34.00~34.40m間では緩方向に表面に沿って割れ目が入り、割れ目に沿って若干酸化汚染を被る。
4											100	91	91			
5	34.77	-29.41	1.84		凝灰岩	濃灰	CH				100	40	73			やや凝灰質。下位との境界は漸移的。全体的にややクラック。
5	35.21	-29.85	0.44		黒色頁岩	黒灰	CM				100	40	73			粗~細粒凝灰岩。36.34m以下では粗~細粒凝灰岩~凝灰質頁岩へ上方細粒化する。又、37.42~39.23m間では粗~細粒凝灰岩へと上方細粒化を示す。下位の地層とは漸移しており、境界は不明瞭である。粗粒部では10~20°の葉理が弱く認められる。35.70~35.81m間には70°の割れ目を介在する。36.18m, 36.42mには変質した偏平軽石に起因する水平方向の割れ目が介在される。36.85~37.00m間には70°の割れ目を2本介在する。割れ目に沿って36.82~37.00m間では酸化汚染を被る。
6											100	33	56			
7											100	47	89			
8											100	100	100			
9	39.23	-32.87	4.02		凝灰岩	灰					100	62	93			φ5~10mmの角粒流紋岩。φ5mm程度の重円~垂角状を呈す安山岩礫及び変質して緑色を呈す偏平軽石を多量に伴う。下位の地層とは漸移し、境界は不明瞭である。φ30mm程度の黒色頁岩をガザ状に少量混入する。
40	40.34	-34.88	1.11		火山礫凝灰岩	濃灰					100	70	100			φ5~30mm(最大10mm)の流紋岩、安山岩の重円~角礫及び変質して緑色を呈し、脈状~レンズ状からなる軽石を雑多に混入する。またφ2~20mm程度の黒色頁岩を所々に含む。下位との境界はやや明瞭。主として変質した軽石に起因した水平~20°の低角度割れ目が見られる。また黒色頁岩には比較的割れ目が発達する。44.13~44.19m間には70°の方解石脈に沿って割れ目が発達する。
1											100	60	100			
2											100	64	95			
3											100	72	100			
4											100	52	91			
5	44.24	-35.68	4.70		凝灰角礫岩	濃暗灰灰					100	61	85			均質凝灰岩。70°の方解石脈に沿った割れ目がある。
5	45.35	-35.99	0.31		黒色頁岩	暗灰					100	56	93			上位の凝灰角礫岩層と同様の岩相よりなる。凝結、硬結は概ね等しいが、最大径25cmの黒色頁岩礫を含む。下位との境界は漸移的。割れ目は変質軽石に起因した低角度割れ目が主に認められる。47.51~47.56m間50°の割れ目を介在し、割れ目面に弱い葉理が認められる。
6											100	43	90			
7											100	32	77			
8											100	27	94			
9	45.34	-43.98	3.39		凝灰角礫岩	濃暗灰灰					100	55	100			凝灰質頁岩の薄層を挟む。
50	45.73	-44.37	0.32		黒色頁岩	暗灰					100	32	92			φ20~50mmの黒色頁岩を多く含む。
50	46.05	-44.99	0.32		凝灰角礫岩	濃暗灰灰					100	32	92			均質凝灰岩。下位との境界は漸移的。
50	46.38	-45.02	0.33		黒色頁岩	暗灰					100	32	92			φ5~30mm(最大10mm)の流紋岩、安山岩の重円~角礫及びφ2~20mm程度の黒色頁岩を伴う。基質は泥分主体。下位との境界は明瞭(50°)。
1											100	52	90			
2											100	52	90			
3	49.15	-47.79	2.77		凝灰角礫岩	濃暗灰灰					100	57	86			30~40°の葉理が発達する。下位の地層との境界は凹凸を有し明瞭である。53.32~53.36m間には葉理に沿った30°の割れ目が介在され、割れ目には葉理が認められる。53.40m以下では葉理が乱れる。
3	49.94	-48.18	0.39		凝灰質頁岩	濃灰					100	56	91			
4											100	42	100			φ5~30mm, 最大11cmの流紋岩、安山岩及び凝灰岩の重円~角礫を雑多に伴う。基質はやや泥質で暗灰色を呈す。又、最大径70mm以下の黒色頁岩片を少量混入する。下位の地層とは漸移し、境界は不明瞭である。53.90mには平伏状に挟まれた黒色頁岩に起因する10°の多少凹凸を有する割れ目を介在する。54.82~55.43m間では水平方向の割れ目が発達し、7は柱状を呈する。56.04~56.16m間にはφ11cmの変質した流紋岩と黒色頁岩を伴う。全体的に下位に向って礫の粒径が大きくなる傾向がある。
5											100	57	83			
6											100	90	100			
7	57.53	-52.27	4.09		火山礫凝灰岩	濃灰白灰					100	63	100			
8											100	53	97			φ10~50mm, 最大11cmの流紋岩、安山岩及び凝灰岩の重円~角礫を雑多に伴う。基質はやや泥質で暗灰色を呈す。上位の地層と同様の岩相を示す。礫の粒径は下位に向って増加する。下位の地層との境界は多少凹凸を有するもの、ほぼ10°で明瞭である。57.63mには50°の割れ目を介在する。φ10~30mmの変質した偏平軽石を散点的に伴うが、それに起因した割れ目は認められない。
9											100	100	100			
60					凝灰角礫岩	濃暗灰灰					100	100	100			

Table with columns: 標尺 (m), 深度 (m), 標高 T.P. (m), 層厚 (m), 柱状図, 地質種別, 色調, 岩級区分, コア形状, 割れ目状態, 風化程度, コア採取率 (%), 最大コア長 (cm), R Q D (%), 孔径 ビット, 孔内試験項目, 孔内試験項目深度 (m), 記 事. Includes data for borehole No. 215 from 60m to 90m depth.



No. 215 孔 (4/7)

孔口標高		T.P. +5.36 m		掘進長		206.00 m		調査期間		1998年 5月 25日 ~ 1998年 7月 16日		試験機械		YBM-3JR		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +0.84 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・透水試験・PS検査(3ペーシング)・ギ7ホ-ル・孔曲試験		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 土壌岩層柱状 砂片柱状 状状状状状状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット コアチップ	孔内試験 項目 深度 (m)	記 事
90																
1											100	100	100			
2											100	59	83			
3											100	63	100			
4											100	84	100			
5											100	58	83			
6											100	68	93			
7	36.53	-91.23	6.53		安山岩	帯緑灰					100	100	100			
8	36.92	-91.56	0.33		凝灰質頁岩	濃灰					100	100	100			全体的に弱い葉理を呈する凝灰質頁岩。葉理は上位から下位に向けて凝灰分をやや多く含む黒色頁岩。全体的に弱い葉理を呈し、部分的に乱堆積構造を示している。97.94~98.00m, 98.03~98.15m間は10°の葉理を呈する緑灰色の凝灰岩層を挟在する。下位との境界は15°である。決在凝灰岩層は葉理面に沿った割れ目が多い。98.13mの割れ目には条線が認められる。
9	36.72	-92.34	1.81		黒色頁岩	黒灰					100	78	91			凝灰質の強い凝灰質頁岩。99.37m以下は塊状の凝灰質頁岩。99.37~100.09m間は15°の平行葉理を示している。100.09~100.36m間は乱堆積構造を呈する。100.36m以下は20°の平行葉理を呈する。下位との境界は明瞭で20°程度で接している。100.42~100.44m間は葉理面に沿った割れ目を有している。99.80m付近に面無断層が分布する。
100	102.53	-95.47	2.11		凝灰質頁岩	灰	CH				100	41	99			塊状の黒色頁岩主体。部分的に極弱い葉理を呈する。下位との境界は漸移的であるが概ね15°で接している。101.03~101.61m, 102.04~102.24m間にはやや凝灰質で15°の弱い葉理を呈する。102.24~102.28m間は弱い乱堆積構造を示す凝灰岩層を挟在する。102.36m以下は方解石がいくつか見られ、これに沿った45°の割れ目が102.55~102.60m間に生じている。
1	102.53	-97.37	1.89		黒色頁岩	黒灰					100	30	88			
2	102.53	-97.37	1.89		凝灰質頁岩	凝灰白灰					100	50	88			厚さ4~12cmの灰白色凝灰質頁岩と細~中粒凝灰岩が互層をなしている。全体的に10°程度の平行葉理を呈している。下位との境界は明瞭で10°で接している。
3	102.73	-98.87	1.02		凝灰質頁岩	凝灰白灰					100	32	95			φ1~6mmの長石とφ1~3mmの緑褐色斑を多数含むドレイト。下位境界は明瞭で15°で接している。上下境界ともに厚さ1mm程度の急冷線が認められる。上下境界から103.90m間は発泡しており、変異が目立たない。下位境界から内側5mm間は発泡が認められる。105.06~106.04m間は変異が多く、又網々の解離が大きく成っている。104.18m, 105.23m, 105.24~105.27m間、105.78mの割れ目には条線が認められる。又104.18m, 106.78mの割れ目には樹指状光沢を呈し、蛇紋石化を受けていると見られる。104.41mの割れ目には黄褐色の硫化物が付着している。
4	102.73	-98.87	1.02		凝灰質頁岩	凝灰白灰					100	62	98			
5	102.73	-98.87	1.02		凝灰質頁岩	凝灰白灰					100	57	86			
6	102.73	-98.87	1.02		凝灰質頁岩	凝灰白灰					100	62	98			
7	102.73	-98.87	1.02		凝灰質頁岩	凝灰白灰					100	78	100			
8	102.73	-98.87	1.02		凝灰質頁岩	凝灰白灰					100	52	85			107.34m以下は18°の平行葉理が発達。107.34~107.34m間は塊状。107.94~108.49m間は15°の平行葉理が発達。108.49~108.88m間は乱堆積構造を呈する。108.88m以下は10°の平行葉理を示している。下位との境界は漸移的だが概ね10°で接している。107.27m以下には葉理面に沿った割れ目が認められる。108.69~108.82m間にはφ1~2mm程度の空隙が見られる。
9	102.90	-103.94	2.05		凝灰質頁岩	淡灰					100	54	89			
110	110.14	-104.78	0.84		黒色頁岩	黒灰					100	58	85			塊状の黒色頁岩主体。109.35~109.41m, 110.04~110.14m間は凝灰質頁岩を挟在。下位との境界は漸移的だが概ね5°。109.35~109.41m間は葉理面に沿った割れ目を有している。
1	112.43	-107.07	2.29		凝灰質頁岩	淡灰					100	38	87			全体的に塊状であるが110.32~110.32m間は10°の葉理が発達している。下位との境界は明瞭で5°で接している。110.43~110.50m, 112.20~112.26m間、112.35m以下は葉理に沿った割れ目が認められる。110.84~110.89m, 111.84~111.91m間は弱い乱堆積構造を呈している。111.42m付近には面無断層が認められる。
2	112.43	-107.07	2.29		凝灰質頁岩	淡灰					100	44	98			塊状の黒色頁岩主体。112.87m以下には厚さ1~5mmの凝灰質頁岩薄層を0°に挟在する。下位との境界は明瞭で0°で接している。
3	112.98	-107.62	0.55		黒色頁岩	黒灰					100	44	79			
4	112.98	-107.62	0.55		凝灰質頁岩	淡灰	CH				100	56	94			全体的にやや泥分を含む粗粒凝灰岩主体。全体的に塊状であるが114.60~114.62m, 115.49~115.64m間は10°の平行葉理が発達している。又113.52~113.82m, 114.37~114.50m, 114.79~114.94m間は乱堆積構造を呈する。下位との境界は明瞭で10°で接している。114.45~114.47m, 115.28~115.34m, 115.58~115.62m間は葉理面に沿って弱い割れ目を有している。114.79~114.94m間には暗緑色に変質した凝灰岩がφ1~5mmの不規則な形状で分布している。
5	115.64	-116.53	2.68		凝灰質頁岩	淡灰	CH				100	42	82			
6	115.60	-116.64	0.28		凝灰質頁岩	淡灰					100	28	72			塊状の黒色頁岩。115.75~115.96m間75~90°の割れ目が発達。
7	115.60	-116.64	0.28		凝灰質頁岩	淡灰					100	34	86			全体に葉理の発達する凝灰質頁岩。116.03~116.72m間は10°程度の平行葉理を示す。116.72~117.80m間は全体にやや塊状であるが極弱い葉理を呈している。下位との境界は明瞭(10°)。115.75~115.95m間75~90°の割れ目によって方解石脈が見られる。116.06~116.08m間葉理に沿った割れ目を有している。
8	116.12	-112.79	2.12		凝灰質頁岩	淡灰	CH				100	51	91			15°の平行葉理の発達する粗~中粒凝灰岩で、上部は凝灰質頁岩~粗粒凝灰岩からなり乱堆積構造を示す。下位との境界は明瞭(10°)。
9	116.65	-112.33	0.54		凝灰質頁岩	淡灰					100	36	70			全体的に5°の弱い葉理を呈する黒色頁岩。凝灰岩、凝灰質頁岩層を所々に挟在する。下位との境界は漸移的だが10°で接している。
120	118.37	-114.01	0.71		凝灰質頁岩	淡灰					100	46	84			

No. 215 孔 (5/7)

孔口標高		T.P. +5.36 m		掘進長		206.00 m		調査期間		1998年 5月 25日 ~ 1998年 7月 16日		試験機械		YBM-3JR		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +0.84 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・透水試験・PS換層(ケベソシ)・ボアホール・孔曲試験		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 土質岩類柱状 砂片柱状 状状状状状状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット コチューブ	孔内試験 項目 深度(m)	記 事
120																
1	121.42	-116.06	1.42		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	29	76		PS換層(ケベソシ)	上部泥分を多く含む、所々に厚さ15~25cm程度の黒色頁岩を挟む凝灰質頁岩で、部分的に葉理(10°)が認められる。挟む凝灰質頁岩は向れも凝灰分を含む。また一部に乱堆積構造が発達。下位との境界は明瞭(10°)。119.45~119.60m, 119.94~120.00m, 120.69~120.77m, 121.26~121.29m, 121.35~121.39m間葉理面に沿った割れ目がわずかに認められる。
2	121.78	-116.41	0.36		黒色頁岩	暗灰					100	59	81		透水試験	凝灰分を多く含む凝灰質頁岩からなり、凝灰質頁岩を挟む。
3	122.35	-117.18	0.77		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	35	93			黒色頁岩を挟む凝灰質頁岩。上部は葉理(10°)が発達。下位との境界は明瞭(10°)。121.79~121.91m間葉理面に沿った割れ目がわずかに認められる。122.10~122.35m間黒色頁岩が挟む。
4	122.50	-117.54	0.35		黒色頁岩	暗灰					100	44	91			所々に厚さ1~5mmの凝灰質頁岩層を挟む。
5	123.43	-118.07	0.53		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	36	89			凝灰分の多い凝灰質頁岩。123.35m以降は乱堆積構造を呈し、これ以降は15°の平行葉理を示す。下位との境界はやや凹凸し、概ね10°で接する凝灰質頁岩層。下位との境界は漸移的で凹凸が著しい。
6	123.78	-118.42	0.35		黒色頁岩	暗灰					100	28	48		透水試験	124.02m以降泥分を多く含む凝灰質頁岩からなり、泥質凝灰質頁岩及び黒色頁岩を互層状に挟む。下位との境界は明瞭(20°)。124.18m灰色平板状粘土(厚さ13mm, 15°, 条線不明)。125.14~125.15m間灰色平板状粘土(厚さ13mm, 15°, 条線不明)。125.08~125.24m間葉理面に沿った割れ目が認められる。125.24~125.35m間不規則な割れ目が密集し、片状状。124.74~124.77m間不規則な割れ目が密集。
7	125.84	-120.24	1.86		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	28	48			全体に凝灰分を多く含む凝灰質頁岩からなり、下位との境界は漸移し、不明瞭。125.74~125.94m間割れ目発達し片状状。125.88~125.94m, 127.69~127.78m間不規則な割れ目が密集している。
8	127.80	-122.44	2.16		黒色頁岩	暗灰	CH				100	26	91			
9	128.95	-123.59	1.15		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	28	84			泥質凝灰質頁岩よりなり、上部ほど泥分を多く含む。128.66m以降凝灰質頁岩で上方細粒化を呈し、10°程度の平行葉理が認められる。下位との境界は明瞭(10°)。128.24~128.66m間乱堆積構造が発達。
10	131.21	-125.85	3.24		黒色頁岩	暗灰	CH				100	47	100			塊状の黒色頁岩主体。131.97m以降凝灰分を少量含む。下位との境界はやや明瞭(20°)で波曲する。129.40~129.51m, 129.95~129.98m, 130.11~130.13m間凝灰質頁岩を挟む。131.20~131.31m間10°程度の葉理を示す凝灰質頁岩と凝灰岩。131.44~131.66m間硬化変質部。130.11~130.15m, 131.20~131.24m間葉理面に沿った割れ目をわずかに有している。131.44~131.66m間凝灰質頁岩層は0~20°の微細な割れ目が発達し、非常に脆い。表面はろうのようなぬめりを有し、爪で容易に傷がつく軟らかさである。
11	131.21	-125.85	0.00		黒灰		CM				100	21	66			
12	131.21	-125.85	0.00		黒灰		CM				100	39	89			
13	133.35	-127.99	4.40		黒色頁岩	暗灰	CH				100	33	77			133.36m以降硬化変質部(短片状)、方解石脈が不規則に発達する。
14	133.72	-128.27	0.38		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	33	77			134.27m以降塊状の黒色頁岩で凝灰質頁岩となる。134.40~134.48m間は10°程度の葉理を呈する。134.48~134.97m間乱堆積構造を示す。下位との境界は明瞭で凹凸する。135.05~135.08m間灰色平板状粘土(厚さ12mm, 10°, 条線不明)。134.42~134.47m, 134.98~134.99m間葉理面に沿ってやや割れ目が多い。
15	135.13	-129.77	1.40		黒色頁岩	暗灰	CH				100	29	57			部分的に葉理が発達する凝灰質頁岩。135.64~135.04m間乱堆積構造を示す。135.44~134.64m間は10°程度の葉理。136.10~135.28m間の平行葉理が発達する。下位との境界は漸移的であるが、概ね15°で接する。
16	135.72	-130.91	1.20		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	57	73			塊状の黒色頁岩主体。厚さ20cm前後の凝灰質頁岩層、厚さ数mm程度の薄層を所々に挟む。挟む層は平行葉理を呈する。下位との境界は明瞭で10°程度で接している。136.67~136.83m間は挟む凝灰質頁岩層の葉理(15°)に沿って割れ目が著しく、厚さ数mm程度の岩片状に割れている。又、136.60~136.66m, 138.02~138.15m, 139.00~139.18m間は、高角度割れ目が生じており、コチチューブに岩片化している。136.65~136.86m間は葉理に沿った割れ目を有している。136.67~136.74m間は厚さ1~10mmの凝灰質頁岩層を15°に挟んでいる。137.04~137.22m, 138.14~138.39m間は塊状の凝灰質頁岩層を15°ないし20°に挟んでいる。139.32~139.45m間は厚さ1~8mmの凝灰質頁岩層を15°に挟んでいる。
17	136.83	-132.02	1.30		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	34	76			塊状の凝灰質頁岩主体。全体的に微細な乱堆積構造を呈する。下位層とは15°で接している。139.95~139.98m間灰色平板状粘土(厚さ24mm, 5°, 条線不明、条線性有)。141.39~141.40m間灰色平板状粘土(厚さ15mm, 10°, 条線不明、条線性有)。140.00~140.05m, 140.32~140.38m間は葉理面に沿った割れ目が認められる。
18	137.85	-133.04	1.22		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	32	85			塊状の黒色頁岩主体。141.04~141.07m間、141.71m, 141.94~141.96m間、142.64m, 142.75m, 142.79m, 142.85~142.92m間は、厚さ1~15mmの凝灰質頁岩ないし凝灰岩層を10~15°に挟む。下位との境界は漸移的だが概ね20°で接している。142.40m, 142.64mのコチチューブ表面には黄色ないし黄褐色の酸化産物が付着。
19	141.89	-136.22	1.64		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	30	98			粗~細粒凝灰岩が15°の平行葉理を呈する。下位境界は明瞭で15°。
20	143.01	-137.95	1.42		黒色頁岩	暗灰					100	31	72			薄層~層状の凝灰質頁岩を挟む凝灰質頁岩からなり、下位との境界は明瞭(15°)。143.51~143.73m間凝灰質頁岩を挟む。
21	143.44	-138.05	0.43		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	30	80			部分的に葉理の見える塊状の凝灰質頁岩。厚さ30~40mm程度の凝灰質頁岩、黒色頁岩を挟む。下位との境界は漸移的であるが、概ね15°で接している。145.27m以降やや割れ目が多く、短片状。144.08~144.18m間上方細粒化を示す凝灰岩。144.18~144.19m間黒色頁岩。144.34m, 145.44m付近硬化変質部。塊状に不規則な形状で分布している。
22	144.08	-138.71	0.64		黒色頁岩	暗灰					100	15	60			10~15°の弱い葉理を呈する粗~細粒凝灰岩。下位との境界は凹凸があるが概ね15°で接している。146.80~146.90m間は葉理方向の微細な割れ目が発達し非常に脆い。その前後146.87~146.88m間はコチチューブの打込み時に凝灰質頁岩層(厚さ1~40mm)を所々に挟む。下位との境界は15°。146.80m, 146.95mの割れ目には条線が見られる。
23	145.08	-140.22	1.50		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	30	93			147.10m付近から徐々に泥質が濃くなり、下位の黒色頁岩に漸移する。
24	145.88	-141.02	0.80		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	33	87			塊状の黒色頁岩主体。粗に凝灰質頁岩層、凝灰岩層を挟む。部分的に平行葉理や乱堆積構造を呈する。下位との境界は下位層の凝灰岩が角礫状に分布するため不明瞭である。147.75~148.05m間は0°~90°の乱れ割れ目が多く、コチチューブに割れ目状に成っている。148.36~148.47m間は、やや葉理に沿って発達しよく岩片状。149.17~149.33m間の45°~90°の割れ目は方解石脈に沿って生じている。149.65~149.70m, 150.00~150.08m間は葉理面に沿った割れ目がわずかに認められる。150.23~150.25m間の55°の割れ目は方解石脈に沿って生じている。151.35~151.48m, 151.84~152.75m間はやや割れ目が多く、コチチューブは短片状。53.11~153.12m, 153.19~153.29m間の25°、60°の割れ目は既存の方
25	148.59	-141.52	0.61		黒色頁岩	暗灰					100	26	67			
26	147.31	-141.95	0.32		凝灰質頁岩	濃灰	CH				100	26	67			



No. 215 孔 (6/7)

ボーリング名		No.215		主任技術者名		稲葉 武史		試験技術者名		澤田 康治		コア鑑定者		尾高 潤一郎、三浦 健一郎		
孔口標高		T.P. +5.36 m		掘進長		206.00 m		調査期間		1998年 5月 25日 ~ 1998年 7月 16日		試験機械		YBM-3JR		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +0.84 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・透水試験・PS検層(サスペンション)・ボアホール曲試験		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 土質岩質注 砂片柱状 状状状状状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット ジョーブ	孔内試験 項目 深度 (m)	記 事
150																
1							CH		1		100	29	87			154.45mの10°の割れ目に酸化鉄付着。154.90~154.98m間存在する凝灰質岩は葉理(15°)に沿う割れ目性。147.40~147.70m間10~20°の葉理を呈する厚さ5~20mmの凝灰質岩、凝灰質質岩質岩。148.25~148.47m間弱い乱堆積構造。154.11~154.90m間はやや凝灰質で乱堆積構造。155.00m以深も凝灰質で、φ2~5mmの礫を多く含む。147.55m付近、148.10~148.14m、148.38~148.47m間、149.18m付近、149.98m付近、150.65~150.68m間、151.10m付近、151.56m付近、154.20m付近黄色ないし黄褐色の酸化鉄付着。 148.99~149.33m、150.22~150.36m、151.01~151.09m、151.54~151.84m、152.27~152.43m、152.60~152.76m、153.00~153.28m、153.58~153.87m、154.09~154.43m間方解石多量。方解石は葉理に沿うもの、葉理斜交するもの凹凸が著しいものがある。
2							CM		3		100	40	100			不均質な粗〜細粒凝灰岩からなる。157.90m付近以後は粗粒凝灰岩からなり、以ては泥分を多く含む。φ5~15mm(最大60mm)の流紋岩、安山岩及び凝灰質質岩の断片を垂直面をむきかき含む凝灰質岩を主体とする。下位との境界は明瞭(10°)。156.40m以後、156.97~157.21m間7°全体が変質し、脆い。156.21~156.40m、156.97~157.21m間葉理に沿って割れ目が著しく発達する。156.40~156.97m間φ5~40mmの流紋岩断片を多く含む。157.99~158.11m、158.74~158.84m間強く変質を被り、カクキ。158.74~158.84m間の割れ目には葉理が認められる。
3							CH		1		100	20	80			
4							CH		1		100	25	72			
5							CH		1		100	43	85			
6							CM		3		100	40	100			塊状凝灰質岩。161.40m以深ではやや構造が乱れる。下位の地層との境界は明瞭(20°)。
7							CH		2		100	59	87			塊状凝灰質岩。全体に方解石片が散在する。下位の地層との境界は明瞭(40°)。161.85~161.94m間には方解石断片を伴った60°の割れ目を介在する。162.43m以深は構造が乱れる。
8							CH		1		100	37	91			一部凝灰岩と層移する。全体が10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層とは漸移し、境界は不明瞭である。162.98m以後はやや構造が乱れ、10°の割れ目により柱状を呈す。162.98~163.13mの間には方解石を多数混入する。
9							CH		1		100	19	69			粗〜中粒凝灰岩。下位とは漸移し、不明瞭。163.95~163.99m間には50°
10							CH		1		100	31	90			10°方向に葉理が発達する。下位の地層とは漸移しており、境界は不明瞭である。165.35~165.42m間には30°の採集時に由来する70°の割
11							CH		1		100	25	73			10~20°の葉理が発達した粗〜中粒凝灰岩。下位の地層との境界は明瞭(70°)。166.20~166.91m間には葉理に沿った割れ目が発達する。特に166.54~166.91m間では葉理に沿って変質を被り、割れ目の発達が多
12							CH		1		100	34	72			塊状凝灰質岩。10°に凝灰質の層層を挟む。下位の地層とは漸移しており、境界は不明瞭である。166.65m以深は10°方向の割れ目が散在し、7°は柱状を示す。166.58~166.69m間には70°の割れ目を介在する。167.58mには挟在する凝灰岩層に沿った10°の割れ目を介在する。167.71~167.83m間には方解石断片を伴った70°の割れ目を介在する。168.21~168.30m間には70°の割れ目を介在する。168.77~168.85m間には70°方向に伸びた階段状の割れ目を介在する。169.21mには葉理に沿った割れ目が強い凝灰質岩を挟む。
13							CH		1		100	32	74			10~20°方向に弱い葉理が認められる。全体的に葉理に沿った方向に割れ目が形成される。下位の地層との境界は明瞭(30°)。169.77~169.89m間では葉理に沿った割れ目が強く認められる。又、170.77~170.90m間では葉理に沿った割れ目の発達した細粒凝灰岩を挟む。
14							CH		1		100	63	85			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
15							CH		1		100	24	94			塊状凝灰質岩。10°に凝灰質の層層を挟む。下位の地層とは漸移しており、境界は不明瞭である。166.65m以深は10°方向の割れ目が散在し、7°は柱状を示す。166.58~166.69m間には70°の割れ目を介在する。167.58mには挟在する凝灰岩層に沿った10°の割れ目を介在する。167.71~167.83m間には方解石断片を伴った70°の割れ目を介在する。168.21~168.30m間には70°の割れ目を介在する。168.77~168.85m間には70°方向に伸びた階段状の割れ目を介在する。169.21mには葉理に沿った割れ目が強い凝灰質岩を挟む。
16							CH		1		100	20	38			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
17							CH		1		100	35	94			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
18							CH		1		100	42	93			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
19							CH		1		100	25	88			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
20							CH		1		100	48	79			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
21							CH		1		100	17	72			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
22							CH		1		100	28	73			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
23							CH		1		100	29	81			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
24							CH		1		100	55	92			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
25							CH		1		100	16	53			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
26							CH		1		100	60	87			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
27							CH		1		100	42	100			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
28							CH		1		100	60	87			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
29							CH		1		100	42	100			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。
30							CH		1		100	51	91			塊状凝灰質岩。部分的に10°方向に弱い葉理が認められる。下位の地層との境界は明瞭(10°)。172.10~172.14m間では葉理に沿った割れ目が著しく、7°は細片状を示す。173.00~173.08m間はカクキである。174.21~174.66m間では葉理に沿った割れ目が発達し、一部岩片状7°。174.18m以深では下位に向って粗〜中粒凝灰岩へ漸移する。

No. 215 孔 (7/7)

孔口標高		T.P. +5.36 m		掘進長		206.00 m		調査期間		1998年 5月 25日 ~ 1998年 7月 16日		試錐機械		YBM-3JR		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +0.84 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・透水試験・PS検層(サスペンション)・コア採取・孔曲試験		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 土層岩塊柱状 砂片柱状 状状状状状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット コア	孔内試験 項目 深度 (m)	記事
180	180.35	-174.99	0.35		凝灰質頁岩	濃灰	C11				100	65	100			PS検層(サスペンション) ホアホールTV 透水試験 孔内水平載荷試験 182.25 182.75 185.25 185.75 186.25 186.75 187.25 187.75 188.25 188.75 189.25 189.75 190.25 190.75 191.25 191.75 192.25 192.75 193.25 193.75 194.25 194.75 195.25 195.75 196.25 196.75 197.25 197.75 198.25 198.75 199.25 199.75 200.25 200.75 201.25 201.75 202.00 202.25 202.50 202.75 203.00 203.25 203.50 203.75 204.00 204.25 204.50 204.75 205.00 205.25 205.50 205.75 206.00
1											100	50	93			
2											100	26	82			
3											100	16	26			
4											100	33	51			
5											100	19	29			
6											100	31	70			
7											100	50	91			
8											100	31	88			
9											100	40	80			
190	180.87	-183.25	10.27		黒色頁岩	黒灰					100	41	97			
1											100	24	87			
2	181.27	-184.91	1.65		凝灰質頁岩	濃灰					100	85	100			
3	181.82	-187.45	0.55		黒色頁岩	暗灰					100	57	100			
4											100	63	100			
5	185.42	-189.25	3.83		凝灰岩						100	63	99			
6											100	100	100			
7											100	98	98			
8											100	38	100			
9											100	100	100			
200											100	75	98			
1											100	52	85			
2	201.91	-196.51	5.40		火山礫凝灰岩	濃灰					100	45	100			
3											100	100	100			
4											100	48	77			
5											100	42	100			
6	205.20	-200.64	4.56		黒色頁岩	黒灰					100	42	100			
7																
8																
9																
210																



19W1 孔



19W1 孔

孔口標高		T. P. +22.61 m		掘進長		24.00 m		調査期間		2019年 8月 1日 ~ 2019年 9月 2日		試錐機械		TEC-1		
角度		—		方向		—		孔内水位		T. P. +5.48 m		孔内試験項目		BTV		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T. P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径ピットコアチューブ	孔内試験項目深度 (m)	記事
0						黒褐									0-20	埋土および粘性土。全体に緩い。炭質物片が散在し上位ほど濃色を呈する。0.00~0.10m間はコンクリート。
1	1.00	21.61	1.00		砂質粘土	褐灰	—				100	—	—		ボアホールTV	礫質土。φ2~42mmの角~亜角礫を主体とする。礫種は主に凝灰岩、凝灰角礫岩、黒色頁岩。基質は赤褐色の粘土質砂~砂質粘土で締まっている。下位境界は傾斜5°でわずかに凹凸有り。
2	2.08	20.53	1.08		礫混じり砂質粘土	赤褐灰	2.08				100	—	—			厚さ1~26mmの凝灰質頁岩と互層状をなす。層理面の傾斜は10~20°。下位境界は凹凸有り。層理面沿いおよび60~70°の割れ目がみられる。
3	2.79	19.82	0.71		黒色頁岩	雑黒褐	C L	2.79	γ	2	100	10	10			貫入岩。全体に網目状の割れ目有り。下位境界は傾斜10°で明瞭。
	3.23	19.38	0.44		ドレライト	雑灰褐		3.23	β	2	100	6	0			厚さ1~15cmの凝灰質頁岩と互層状をなす。傾斜は10~15°。
	3.56	19.05	0.33		黒色頁岩	雑黒褐		3.56			100	16	44			細粒~中粒凝灰岩を主体とする。下位境界は傾斜5°でやや凹凸有り。
4						雑黄褐	C M	4.45		2	100	46	90			4.20~4.45m間は層理沿いの割れ目が顕著となり、岩片状を呈し、一部細粒化する。
						褐		5.21				100	57	95		
	5.83	16.78	2.27		凝灰岩	青緑灰	C H	5.83	α	1	100	66	98			φ2~22mmの輪郭の不明瞭な礫を主体とする。礫種は流紋岩、凝灰岩、黒色頁岩。基質は細~粗粒凝灰岩。下位境界は漸移的で不明瞭。
	6.40	16.21	0.57		火山礫凝灰岩	青緑灰			6.40			100	35	98		
7							C H				100	51	99			6.40~7.09m間は細~中粒凝灰岩。
8												100	58	97		
9	9.66	12.95	3.26		凝灰岩	青緑灰	C H				100	72	72			φ4~24mmの輪郭の不明瞭な礫を主体とする。礫種は流紋岩、凝灰岩、凝灰質頁岩、黒色頁岩。下位境界は傾斜10°でわずかに凹凸有り。
10	10.81	11.80	1.15		火山礫凝灰岩	青緑灰			10.81			100	34	73		
11	11.61	11.00	0.80		凝灰岩	緑灰	C L	11.61			100	72	72			厚さ40~80mmの凝灰質頁岩を挟む。下位境界は傾斜20°でやや凹凸有り。
12	12.24	10.37	0.63		黒色頁岩	雑黒褐		C H	12.24			100	40	99		
13						青緑灰	C M	13.90			100	33	96			12.65~12.90m間は細粒凝灰岩。葉理がやや乱れている。
14	14.01	8.60	1.77		火山礫凝灰岩	雑褐灰			14.01	β	2	100	40	99		
15						青緑灰	C H	14.47			100	73	99			下位境界は傾斜20°で明瞭。
16						雑黒褐			14.47			100	73	99		
17						青緑灰	C H	16.17			100	46	86			14.57~16.17m間は中~粗粒凝灰岩を主体とし、級化層理がみられる。
18						雑黒褐			16.17	α	1	100	25	87		
19						青緑灰	C H	16.54			100	46	86			16.59~16.75m間は粗粒~細粒凝灰岩。級化層理がみられる。
20						雑黒褐			16.54			100	25	87		
21						青緑灰	C H	17.48			100	34	84			16.75~17.48mは細粒凝灰岩を主体とし、弱い葉理がみられる。
22						雑黒褐			17.48	β	2	100	34	84		
23						青緑灰	C M	18.53			100	34	84			厚さ1~10mmの凝灰質頁岩、細粒凝灰岩の薄層を挟む。層理面の傾斜は20°。
24						雑褐黒			18.53			100	39	92		
25						青緑灰	C H	19.24			100	65	86			細粒凝灰岩を主体とする。葉理が発達するが一部乱堆積構造がみられる。下位境界は傾斜30°で凹凸有り。
26						雑褐灰			19.24			100	72	99		
27						青緑灰	C H	20.26			100	26	89			19.59~19.71m間は凝灰質黒色頁岩を挟む。
28						雑褐灰			20.26			100	26	89		
29						青緑灰	C H	23.0			100	73	98			20.26~20.91m間は級化層理がみられる。部分的に凝灰質頁岩の薄層を挟む。
30						雑褐灰			23.0			100	73	98		
31						青緑灰	C H	24.00			100	26	89			葉理が発達するが一部乱堆積構造がみられる。下位ほど粗粒。
32						雑褐灰			24.00			100	26	89		
33						青緑灰	C H	24.00			100	26	89			φ3~25mmの角礫を主体とする。礫種は流紋岩、凝灰質頁岩、凝灰岩が多い。
34						雑褐灰			24.00			100	73	98		
35						青緑灰	C H	24.00			100	73	98			23.10~23.25m黒色頁岩の礫が混じる。
36						雑褐灰			24.00			100	73	98		



19W2 孔



19W2 孔 (1/2)

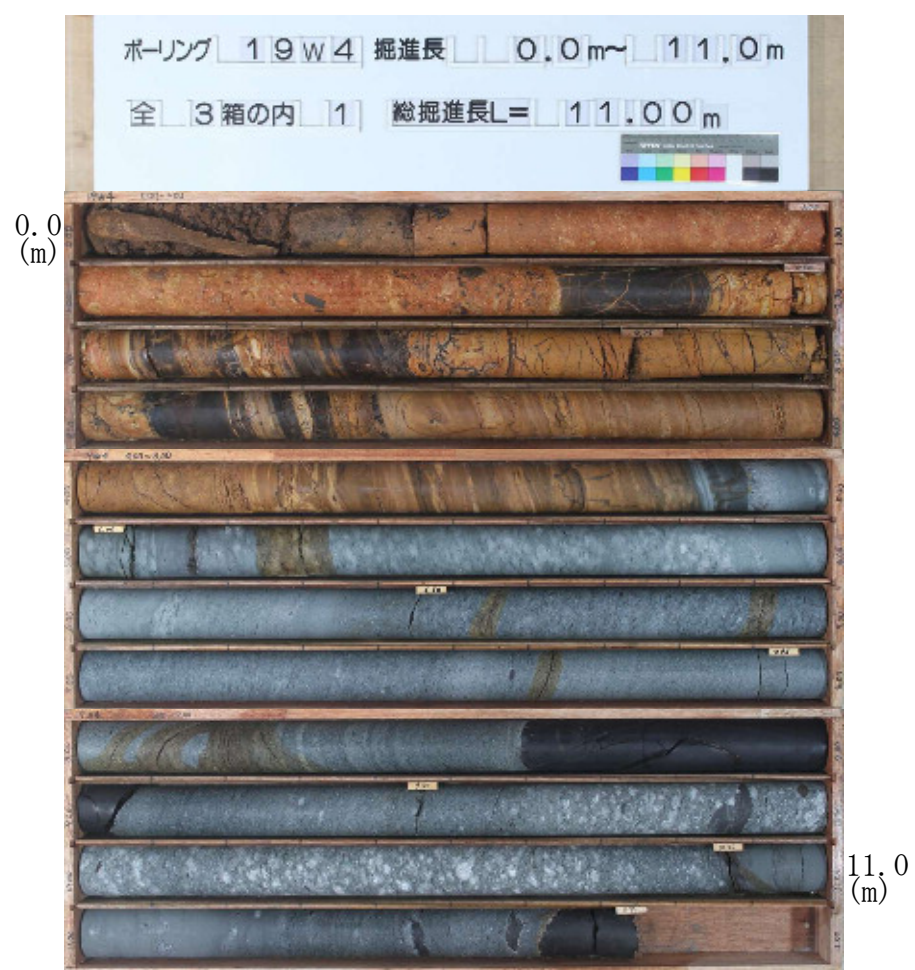
孔口標高		T. P. +29.89 m		掘進長		31.00 m		調査期間		2019年 8月 1日 ~ 2019年 8月 14日		試錐機械		D0-D		
角度		—		方向		—		孔内水位		T. P. +4.92 m		孔内試験項目		BTV		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T. P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 土短岩短柱長 砂片片柱 柱 状状状状状	割れ目状 態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット コアチューブ	孔内試験 項目 深度(m)	記 事
0	—	—	—		礫混じり砂質粘土	黄褐	—									埋土。礫はφ2~42mmを主体とする。礫種は黒色頁岩、凝灰質頁岩、凝灰岩、凝灰角礫岩。ビニール片、紙片が混入する。
1	0.77	29.12	0.77		礫混じり砂質粘土	赤褐灰	—				100	—	—			礫質土。礫はφ2~56mmの角~亜角礫を主体とする。礫種は黒色頁岩、凝灰質頁岩、凝灰岩で、基質は赤褐色の砂質粘土~粘土質砂で締まっている。下位境界は傾斜15°でわずかに凹凸有り。
2	2.05	27.84	1.28		赤褐灰	雑褐黒	2.05		2.05	2.05	100	—	—			凝灰質頁岩の薄層と互層状をなす。傾斜15~20°。2.39~2.40mは層理面沿いの割れ目に厚さ5mmの細礫、砂混じり粘土を挟む。下位境界は30°で凹凸有り。
3	2.82	27.07	0.77		黒色頁岩	雑褐黒	C L		γ	3	100	4	0			貫入岩。全体に網目状の割れ目が入り、割れ目は黒~黒褐色化。下位境界は傾斜15°で明瞭。
	3.30	26.59	0.48		ドレイト	雑褐黒							100	7	0	
	3.66	26.23	0.36		黒色頁岩	雑褐黒										
4	—	—	—		雑褐灰	雑褐灰	4.48	4.48	4.48	4.48	100	26	48			3.66~4.93m間は細粒~中粒凝灰岩を主体とする。4.38~4.47m間は層理面沿いの割れ目がやや顕著となり、一部岩片状を呈する。やや粗粒でφ2~10mmの火山礫が混じる。4.47~4.93mは凝灰質頁岩となる。
5	—	—	—		雑褐灰	雑褐灰	4.93	4.93	4.93	4.93	100	57	99			4.93~9.80m間は中粒~粗粒凝灰岩を主体とし、細粒凝灰岩の薄層を挟む。φ2~10mmの礫を含み、最大83mmの礫が混じる。礫種は黒色頁岩、凝灰岩、流紋岩。10°~20°の割れ目沿いが一部褐色化。
6	—	—	—		雑褐灰	雑褐灰	7.00	7.00	7.00	7.00	100	57	99			
7	—	—	—		雑褐灰	雑褐灰	7.48	7.48	7.48	7.48	100	43	93			
8	—	—	—		雑褐灰	雑褐灰	7.82	7.82	7.82	7.82	100	27	86			
9	—	—	—		雑褐灰	雑褐灰	9.31	9.31	9.31	9.31	100	36	87			
10	9.80	20.09	6.14		凝灰岩	青緑灰	C H		α	1	100	56	98			φ2~35mmの角~亜角礫を主体とする。礫種は流紋岩、凝灰岩、凝灰質頁岩、黒色頁岩で、5~15°の傾斜で弱く配列する。基質は中粒~粗粒凝灰岩。下位境界は傾斜15°で明瞭。11.01~11.15m、11.35~11.50m間は中粒~粗粒凝灰岩。11.15~11.35m間は黒色頁岩の礫が混じる。
11	11.50	18.39	1.70		火山礫凝灰岩	青緑灰		11.01			11.01	11.01	11.01	100	16	70
12	12.25	17.64	0.75		黒色頁岩	褐黒	C M		β	2	100	22	79			φ2~20mmの礫を含み、最大35mmの礫が混じる。礫種は黒色頁岩、凝灰岩、流紋岩の角~亜角礫が多い。基質は中粒~粗粒凝灰岩。20~30°の割れ目沿いは一部褐色化する。下位境界は傾斜20°で明瞭。13.56~13.81m間は葉理の発達する凝灰質頁岩となる。
13	14.05	15.84	1.80		火山礫凝灰岩	青緑灰		13.69			13.69	13.69	13.69	100	31	86
14	—	—	—		雑褐灰	雑褐灰	14.58	14.58	14.58	14.58	100	42	97			
15	—	—	—		雑褐灰	雑褐灰	15.37	15.37	15.37	15.37	100	36	80			
16	—	—	—		雑褐灰	雑褐灰	16.62	16.62	16.62	16.62	100	40	85			
17	17.54	12.35	3.49		凝灰岩	青緑灰	C H		α	1	100	20	87			凝灰質頁岩、細粒凝灰岩を厚さ2~14mmの薄層状に挟む。傾斜は15~25°。下位境界は傾斜25°で明瞭。
18	18.24	11.65	0.70		黒色頁岩	褐黒灰		17.54			17.54	17.54	17.54	100	72	97
19	—	—	—		青緑灰	褐黒灰	C M		β	2	100	18	50			
20	—	—	—		青緑灰	褐黒灰		19.43			19.43	19.43	19.43	100	38	88
21	21.11	8.78	2.87		凝灰岩	淡緑灰	C H		α	1	100	58	97			φ2~72mmの角~亜角礫を主体とする。礫種は流紋岩、凝灰岩、黒色頁岩。下位境界は傾斜15°でやや凹凸有り。23.60~23.93m間は堆積構造の傾斜が60~65°を示す。
22	—	—	—		凝灰岩	淡緑灰		20.23			20.23	20.23	20.23	100	47	78
23	—	—	—		凝灰岩	淡緑灰	23.60	23.60	23.60	23.60	100	57	95			
24	24.18	5.71	3.07		火山礫凝灰岩	雑褐灰	C H		α	1	100	30	80			24.73~27.35m間はφ2~50mmの角~亜角礫を多く含む。礫種は流紋岩、凝灰岩、黒色頁岩で粒径は不均質。基質はやや泥質な細粒~粗粒凝灰岩。
25	24.73	5.16	0.55		黒色頁岩	褐黒灰		24.18			24.18	24.18	24.18	100	63	74
26	—	—	—		雑褐灰	雑褐灰	25.35	25.35	25.35	25.35	100	50	96			
27	—	—	—		雑褐灰	雑褐灰	27.35	27.35	27.35	27.35	100	53	93			
28	—	—	—		雑青緑灰	雑青緑灰	27.75	27.75	27.75	27.75	100	46	96			
29	29.56	0.33	4.83		凝灰角礫岩	青緑灰	C M		α	1	100	57	69			27.75~28.04m間は弱い葉理がみられる中粒~粗粒凝灰岩。φ2~12mmの礫が混じる。28.04~28.27m間はφ2~45mmの角~亜角礫を多く含む。礫種は流紋岩と黒色頁岩が多い。基質は中粒~粗粒凝灰岩。28.37~29.56m間は中粒、粗粒凝灰岩を主体とし、φ2~52mmの角~亜角礫が混じる。礫種は流紋岩、黒色頁岩、凝灰岩。部分的に弱い葉理がみられる。下位境界は傾斜30°で凹凸有り。
30	—	—	—		黒色頁岩	褐黒灰		29.56			29.56	29.56	29.56	100	—	—



19W2 孔 (2/2)

孔口標高		T.P. +29.89 m		掘進長		31.00 m		調査期間		2019年 8月 1日 ~ 2019年 8月 14日		試錐機械	DO-D			
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +4.92 m		孔内試験項目	BTV			
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 土短岩短柱長 砂片片柱柱 状状状状状状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット コアチューブ	孔内試験項目 深度(m)	記 事
30	30.32	-0.43	0.32		黒色頁岩	褐黒灰	CM	30.32	α	1	100	75	99	φ 86mm/m ダイヤ・タプル	31.00	29.96~30.24m間は中粒~細粒凝灰岩。下位境界は凹凸有り。 φ2~32mmの角~亜角礫を主体とし、最大80mmの礫が混じる。礫種は流紋岩、凝灰質頁岩、凝灰岩、黒色頁岩で基質は粗粒凝灰岩。
1	31.00	-1.11	0.68		凝灰角礫岩	雑灰白	CH	31.00								
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
40																
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
50																
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
60																

19W4 孔





19W4 孔

孔口標高		T.P. +25.45 m		掘進長		11.00 m		調査期間		2019年 8月 1日 ~ 2019年 8月 23日		試錐機械		YSO-1		
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +20.35 m		孔内試験項目				
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	層厚 (m)	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状 土短岩短柱長 砂片片柱柱 状状状状状状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 ビット コアチューブ	孔内試験項目 深度(m)	記 事
0																埋土および粘性土。φ2~6mmの角礫が混じる。全体に緩い。
1	0.45	25.00	0.45	△	礫混じり砂質粘土	黄褐	—		—	—	100	—	—			礫質土。φ2~28mmの角礫を主体とする。礫種は凝灰岩、凝灰質頁岩、黒色頁岩、流紋岩。基質は赤褐色の粘土質砂~砂質粘土で締まっている。下位境界は傾斜20°でわずかに凹凸有り。
2	1.64	23.81	1.19	△	礫混じり砂質粘土	赤褐灰	D		—	—	100	—	—			厚さ2~30mmの凝灰質頁岩と互層状をなす。層理面沿いの割れ目褐色化。下位境界は傾斜20°で凹凸有り。
3	2.45	23.00	0.81	△	黒色頁岩	雑褐黒	D		—	—	100	10	10			貫入岩。全体に網目状の割れ目が入り、割れ目は黒~黒褐色化。最上部にφ2~6mmの黒色頁岩片が混じる。下位境界は傾斜20°でわずかに凹凸有り。
4	3.10	22.35	0.65	L	ドレイト	雑灰褐	CL	3.10	γ	3	100	12	12			下位境界は傾斜15°で明瞭。3.30mにドレイトをクサビ状に挟む。
5	3.40	22.05	0.30	L	黒色頁岩	雑褐黒	CL	3.40	γ	3	100	31	62			細粒~中粒凝灰岩を主体とする。中~粗粒凝灰岩、凝灰質頁岩の薄層と互層状をなす。3.65m、3.94mは層理に沿って細かい割れ目が入り、一部岩片状を呈する。4.20~4.23m間は層理沿いの割れ目が顕著となり、岩片状を呈する。下位境界は傾斜10°で明瞭。
6	4.89	20.56	1.49	△	凝灰岩	雑褐灰	CH	4.35 4.67	β	2	100	69	90			φ4~22mmの角~亜角礫を主体とする。礫種は流紋岩、凝灰岩、黒色頁岩で傾斜10~20°で弱く配列する。基質は中粒~粗粒凝灰岩を主体とする。下位境界はやや漸移的で不明瞭。
7	5.84	19.61	0.95	△	火山礫凝灰岩	青緑灰	CH		β	2	100	44	90			中粒~粗粒凝灰岩を主体とし、φ2~16mmの角礫が混じる。礫種は黒色頁岩、凝灰質頁岩、凝灰岩、流紋岩で傾斜10~20°で弱く配列する。部分的に細粒~中粒凝灰岩を薄層状に挟む。下位境界は傾斜20°で明瞭。
8	7.63						CL	7.63	β	2	100	61	89			やや凝灰質の黒色頁岩。60~75°の割れ目沿いは部分的に褐色化。下位境界は傾斜35°でやや凹凸有り。
9	8.60	16.85	2.76	△	凝灰岩	青緑灰	CL	8.26 8.60	β	2	100	32	45			中粒~粗粒凝灰岩。φ2~12mmの角礫が層状に弱く配列する。傾斜15~20°。礫種は凝灰岩、黒色頁岩、流紋岩。下位境界は漸移的で不明瞭。
10	9.06	16.39	0.46	△	黒色頁岩	暗灰	CL	9.06	β	2	100	54	94			φ2~26mmの角~亜角礫を主体とする。礫種は流紋岩、凝灰岩、凝灰質頁岩、黒色頁岩で基質は中粒~粗粒凝灰岩。下位境界は傾斜20°でやや凹凸有り。9.87mにφ65mm以上の頁岩礫が混じる。10.88m以降は細粒~中粒凝灰岩を主体とし、緻化層理がみられる。
11	9.58	15.87	0.52	△	凝灰岩	青緑灰	CH	9.58	β	2	100	87	87			
1	11.00	14.45	1.42	△	火山礫凝灰岩	青緑灰	CH	11.00	β	2	100	87	87			
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
20																
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
30																

19W5 孔





19W5 孔

孔口標高		T.P. +26.17 m		掘進長		11.00 m		調査期間		2019年 8月 1日 ~ 2019年 9月 6日		試錐機械	YS0-1			
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +20.77 m		孔内試験項目				
標尺 (m)	深 度 (m)	標 高 T.P. (m)	層 厚 (m)	柱 状 図	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状 土短岩短柱長 砂片片柱 柱 状状状状状	割 れ 目 状 態	風 化 程 度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	孔径 ビット コアチューブ*	孔内試験 項目 深度(m)	記 事
0																
1	0.52	25.65	0.52		礫混じり砂質粘土	黒褐	—				100	—	—			埋土および粘性土。礫はφ2~24mmの角~亜円礫で礫種は黒色頁岩。植物根、炭質物が散在する。下位境界は凹凸有り。
1	1.67	24.50	1.15		礫混じり砂質粘土	雑赤褐灰	1.67				100	9	0			礫質土。φ2~65mmの角~亜角礫を主体とし、礫種は黒色頁岩、凝灰質頁岩、凝灰岩。基質は赤褐色の粘土混じり砂~砂質粘土で締まっている。
2	2.38	23.79	0.71		黒色頁岩	雑黒褐	CL		γ	3	100	9	0			厚さ0.1~21cmの黒色頁岩と凝灰質頁岩が互層状。傾斜は10~15°。2.13m、2.25mは層理面沿いの割れ目に厚さ10mmの礫、砂混じり粘土を挟む。
3	2.93	23.24	0.55		ドレライト 黒色頁岩	雑黒褐	CL				100	9	0			貫入岩。全体に網目状の割れ目が入り、割れ目は黒~黒褐色化。最上部に黒色頁岩の岩片が混じる。下位境界は傾斜25°でわずかに凹凸有り。
3	3.24	22.93	0.31		黒色頁岩	雑黒褐	CL				100	9	0			厚さ1~30mmの凝灰質頁岩と互層状。傾斜5~15°。下位境界は凹凸有り。
4					黒色頁岩	雑黄褐					100	9	0			細粒~粗粒凝灰岩。級化層理がみられる。下位境界は漸移的で不明瞭。
4					黒色頁岩	雑黒褐	CM				100	29	57			4.22~4.28m間は層理沿いの割れ目が顕著となり、岩片状を呈し、一部細粒化する。
5					黒色頁岩	雑褐灰	CL				100	28	62			4.28~5.44m間は中粒凝灰岩、凝灰質頁岩と厚さ7~20mmで互層状をなす。
6					黒色頁岩	雑褐灰	CL				100	28	62			5.44~6.81m間は粗粒凝灰岩主体で、φ1~3mm、最大20mmの岩片が混じる。
7	6.81	19.36	3.57		凝灰岩	雑緑褐	CH				100	52	85			φ4~20mmの角~亜角礫を主体とする。礫種は凝灰岩、凝灰質頁岩、黒色頁岩、流紋岩。下位境界は漸移的で不明瞭。
7	7.49	18.68	0.68		火山礫凝灰岩	雑褐灰	CH		β		100	47	67			中粒~粗粒凝灰岩を主体とする。部分的に凝灰質頁岩、細粒凝灰岩を葉理状に挟む。下位境界は漸移的で不明瞭。
8					凝灰岩	雑緑灰	CL				100	16	47			8.52~9.81m間は粗粒で、8.63mに厚さ30mmの層状に黒色頁岩を挟む。
9					凝灰岩	青緑灰	CH				100	72	72			φ2~4mmの角礫を多く含む。礫種は凝灰岩、凝灰質頁岩、黒色頁岩、流紋岩で傾斜5~10°で弱く配列する。
10	9.81	16.36	2.32		凝灰岩	青緑灰	CH			1	100	72	72			φ4~16mmの礫を含む。礫種は凝灰岩、凝灰質頁岩、黒色頁岩、流紋岩で基質は中粒~粗粒凝灰岩。黒色頁岩の礫は扁平。
11	11.00	15.17	1.19		火山礫凝灰岩	青緑灰	11.00				100	80	95			10.73~10.83m細粒凝灰岩を挟む。
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																
21																
22																
23																
24																
25																
26																
27																
28																
29																
30																